

幼兒の教養

號六第 號六月 卷二十三第



東京女子高等師範學校會
日幼稚園協會

第二回全國保母大講習會

一、期日

昭和七年八月四日より七日迄(四日間)
自午前八時午後四時迄毎日八時間

午前の部

一、保母の知らなければならない幼兒の心理

研究

京都帝國大學 文學博士

岩井勝二郎

二、新しい保育

奈良女高師教授幼稚園主事

森川正雄

三、幼兒衛生の新しい考へ方

大阪醫科大學 醫學博士

梶原三郎

四、幼兒の自然現象の觀察

奈良女高師教授

神戸伊三郎

五、手技と黒板畫

奈良女高師教授兼訓導

横井曹一

六、新童話の理論と實際

大阪毎日新聞社

藤野博

午後の部

1. 幼兒の唱歌遊技と體育ダンス
大阪市金蘭高女教官 久保富次郎

2. 幼兒の最も新しい新舞踊
大阪市金蘭高女教官 久保富次郎
ダンス舞踊の研究に十數年、著書五十種を算す一昨々年撰
ばれて歐米の幼兒舞踊の研究に彼の地に行き昨年歸朝した
る、幼兒舞踊建設の新人

書著郎次富保久	歐米の體育と幼稚園	一圓半	以上
體育ダンス	最も新しいダンスと唱歌遊技	一圓半	
唱歌遊技十三講	幼兒のおさり	六十錢	本は當
新舞踊	唱歌遊技十三講	六十錢	會にて
	六十錢	六十錢	御取次
	六十錢	六十錢	をなす

主催 大日本新遊技研究會

振替 大阪七壹壹四六番

大阪市西淀川區野里町壹壹參參

一、會場ご申込會費

於大阪市大手前高等女學校(市電大阪城前下車)

午前の部金貳圓半。午後の部金貳圓半、兼修金四圓

申込は昭和七年七月末日迄會費を添、午前午後を明記し大

阪西淀川區野里町一、二三三、大日本新遊技研究會に書留若

くは振替口座大阪七壹壹四六番に拂込むこと。

一、宿泊は二食附金壹圓貳拾錢にて指定旅館大阪驛

前浮田旅館本店にて親切に世話をす

大日本新遊技研究所兒童部長 戸谷俊子

「新幼稚園唱歌」遊戲講習會

日　自七月二十二日　五日間、午後一時ヨリ四時マデ
至同二十六日

期　　日　　所　　東京女子高等師範學校講堂

場　　講　　師
一、新幼稚園唱歌のうたひ方（三時間）
一、新幼稚園唱歌の遊戲（六時間）

東京音楽學校教授　船橋榮吉君
東京昭和保母養成所長　土川五郎君
東京府第六高等女學校教諭　戸倉ハル君

會　　費　　金貳圓五拾錢

申　　込　　七月二十日まで、本會宛

（會費は申込と同時に日本幼稚園協會振替
口座東京一七二六六番にお拂込下さい。）

文部省主催幼稚園講習が七月二十二日より同二十七日まで東京女子高等師範學校に於て開催せらるゝ
豫定に基き、其の中五日間毎日午後、右の通り本會主催の遊戲講習會を開催します。
さきに音樂教育協會に於て編纂發行せられたる新幼稚園唱歌につき、その正しき歌ひ方と其の新らし
き遊戲法とを同協會委員たる船橋教授と遊戲の新作に當られたる土川、戸倉兩氏とを煩はし講習する
のであり、幼稚園の保育材料として講習員諸君の爲に最も新らしく、最も有益なるものを提供し得る
ことを確信してゐます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

昭和七年六月

第四回保育夏期講習會

主催 佛教 保育協會

七月二十七日(水)ヨリ三十一日マデ五日間(但八月一日見學)

東京市小石川區傳通院前 傳通會館
毎日午前八時ヨリ午後三時マデ

金貳圓也

東京市芝區芝公園淨土宗務所内佛教保育協會(振替口座東京七八六六七番)

七月二十日迄(同期間中モ定員超過ノ場合ハオ断リスルコトモアリマス)

百五拾名

新宿御苑竝市内有數ノ保育事業施設

一泊二食付一圓内外ニテ淑徳高等女學校寄宿舎ヲ使用(希望者ハ申込書ニソノ旨記入ノコト)

講師及講題

現下ノ教育問題

本文部政務次官
本會々長

安藤正純氏

遊

戲 島田舞踊研究所長

島田 豊氏

幼兒生活ト保育

東京女高師教授

倉橋惣三氏

手

技 前帝都教育會

卜部たみ氏

音楽

前東京音楽學校教官

弘田龍太郎氏

佛教ノ幼兒保育

本會副會長

中野高等女學校校長

宗教ト教育

東京帝國大學教授

宇野圓空氏

婦人ノ修養問題

本會副會長

研究會研究會長

割時間

日 時

八時十九時九時十時十時十一時十二時十三時

午前

午後

申込會期

申込所

泊宿見定

員員

費間

場日

申込期

日

申込期

例

期

例

日	時	八時十九時九時十時十時十一時十二時十三時	午前
二十七日(水)	開會式	安藤講師 安藤講師 弘田講師 弘田講師	一時一二時二時三時
二十八日(木)	富田講師 弘田講師 弘田講師 弘田講師	倉橋講師 倉橋講師 倉橋講師 倉橋講師	富田豊氏
二十九日(金)	宇野講師 宇野講師 下部講師 下部講師	宇野講師 宇野講師 下部講師 下部講師	關寛之氏
三十日(土)	下部講師 下部講師 島田講師 島田講師	島田講師 島田講師 研究會研究會長	富田豊氏
三十一日(日)	閉會式	島田講師 島田講師	

第四回夏季保育遊戲講習會

一、期日 七月廿八より八月一日迄五日間

二、時間 午前八時より十二時迄
午後一時より五時迄

三、科目ご講師

1. 幼稚園に於ける製作の理論 (三時間)

(東京女子高等師範學校教授)

(東京昭和保母養成所顧問兼講師)

倉橋惣三先生

2. 製作の實際 (六時間)

(東京女子高等師範學校教諭)
同附屬幼稚園保育

及川ふみ先生

3. 幼兒個性の觀察の仕方と其教育法 (六時間)

(文理科大學教授)
檜崎淺太郎先生

4. 音樂 (六時間乃至八時間)

新刊昭和幼年少年唱歌を主材として
東京音樂學校教官 梁田貞先生

新刊新幼稚園唱歌を主材として
東京高等音樂學校教官 武岡鶴代先生

5. 律動及表情遊戲
新幼稚園唱歌中廿八種を主材としてこれに低、中、高學年のも
の何れも創作せられたるもの
東京高等音樂學校教官 瑞穂幼稚園長 土川五郎先生

(東京昭和保母養成所長)

土川五郎先生

四、區分 保育科 遊戲科

1 2 3 4 の四科目

5 の科目

五、定員三百名

六、會場 東京市外大井町原五、二〇八

瑞穂幼稚園

瑞穂幼稚園

省線大井町驛下車

驛前城南乗合自動車原停留所

下車二分

七、會費 保育科金三圓遊戲科金三圓兼修金五圓

八、乗車割引券 五割引往復券

九、申込 七月廿五日迄に

東京市外大井町原五二〇八 土川五郎
宛住所氏名及科名を明記し會費を添へ
て申込ませたし

本校寄宿舎を充用す一泊二食一圓五十
錢にて便宜お計りいたします

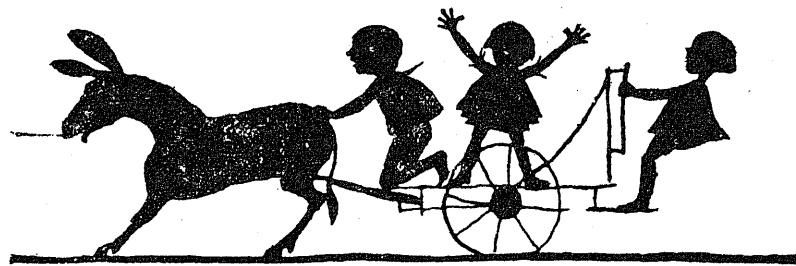
本校寄宿舎を充用す一泊二食一圓五十
錢にて便宜お計りいたします

主催者

東京昭和保母養成所

責任者 土川五郎

新幼稚園唱歌中廿八種を主材としてこれに低、中、高學年のも
の何れも創作せられたるもの



日本幼稚園協会編輯會の兒育

會主幹長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
附屬幼稚園主事 倉橋惣三

日本幼稚園協会規則

第一條 本會へ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ル
ヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協会ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ
關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篇志ナルモノ

トス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金銭拾五
錢ヲ醸出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行
雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種
ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業
ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員
トナスコトアルベシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會
ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ
請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ナ開ク。但場
合ニヨリ臨時休會スルコトナ得

第八條 本會ハ左ノ事業ナ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査會ノ二
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ二

開催

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ月年ヲ期
モテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ
又ハ書記ヲ雇入ル、ゴトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席員會ノ三分ノ二
トナス得ズ

- 一、雜誌發行（毎月一回）
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル
事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務チ總理ス

主幹 一名 會長チ補佐シテ會務チ掌
理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務チ
分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長
ノ諮詢ニ應ズ



號第六教育の児幼卷二十三第

—(次) 目)—

口 繪 五月の或る日(東京女子高等師範學校附屬幼稚園)
心のはだ(卷頭) 倉橋惣三・(一)

五月の一週間

はしかき	倉橋惣三・(二)
海の組	菊池フジノ・(四)
山の組	徳久孝子・(七)
川の組	神原キク・(六)
森の組	新庄よしこ・(西)
林の組	及川ふみ・(四)
池の組	村上露子・(西)
保育そのきく	倉橋生・(窓)
花壇並に花壇用草花年中行事—六月—	富本光郎・(窓)
園藝曆(六月 水無月)	大岩金・(窓)
遊戯エンソク	土川五郎・(七)

帝國教育會
主催

第一回保育講習會

一、期

日　自七月二十八日至同三十日四日間（午前八時より正午迄）

二、會

場　教育會館（神田區一ツ橋通り）

三、講

師

幼兒保育（三時間）

文部省督學官

森岡常藏氏

保育法總論（八時間）

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園主事

倉橋惣三氏

幼稚園と小學校（六時間）

東京女子高等師範學校
附屬小學校主事

堀七藏氏

一、會費　一人金參圓（申込と同時に御拂込のこと）

二、資格　幼稚園及託兒所保姆並検定志望者、幼兒教育研究者、小學校訓導

三、申込期間　七月二十五日迄（本會宛）

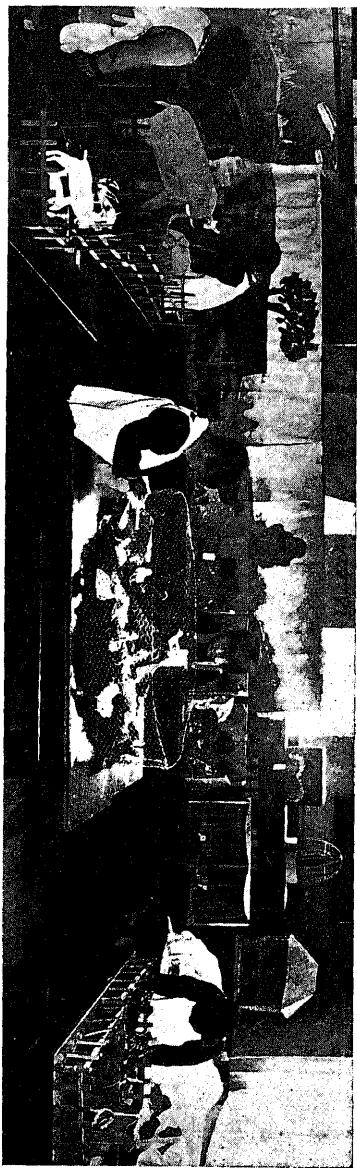
四、申込書

申込書には氏名、住所、職業を明記すること。

帝國教育會

（東京市神田區一ツ橋
振替東京一八六三一番）

檻ののもけ 池のりさづみ





しつ。

ぼうふらが

沈んでしまふよ。

——初夏の真晝しづかに——



ねたれ塗くよ

育教の児幼

月六年七和昭

心のはだ。

肥えたる、痩せたる。顔容とゝのへる、とゝのはざる。しかも、どの子の手を握つて見ても、頬を撫でて見ても、かわりなきは、そのはだのやわらかさと滑かさとである。なかには、隨分よごれてゐるのがあつても、よじれたまゝに、やっぱり、やわらかく、すべりこむ。子どもの心のはだも同じである。

それにしても、われ／＼大人の心のはだのなんと荒れてゐることか。自省に洗はれ、道徳に彩られ、作法に塗られてはるても、心の地はだのなんと粗くなつてゐることか。時には自省と道徳と作法とで却つておしゃろいやけがして、恐ろしい程がさ／＼になつてさべる。

子どものやわらかい手を握り、滑かな頬を撫でる毎に、いつも思はせられるのは、子どものはだにどんなに感じられてゐるだらうかといふことである。まさかに傷け破りはしないまでも、さぞ、さら／＼した心地悪しさを感じさせてゐるだらうといふことである。

それはまあ、ゆるして貰はう。恐るゝのは、心のはだの觸れあひだ。子どもの、あの心のはだに此のがさ／＼した心のはだで觸れることだ。

五月の一週間

—東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於ける保育の實際—

はしがき

倉橋惣三

幼稚園は生きてゐる。その生きてゐるところを、ありのまゝに、なまくしく記しとめたのが、之等の日誌である。保育諸君は皆、お恥しいことでと言つてゐる。人に示さうとする標本でもなく、保育の型でもないのは勿論である。

しかし、その中に、私達が平生話しあつてゐる考へ方や、心もちが、全局的に、又部分的に、おのづから實現せられてゐるものに相違ない。私としては、それが今更にうれしい。また、そこを汲み取つて下さる方があつたら、手をさし伸べて握手したいやうの氣がする。と同時に、批判と異議とも、先づ私にぶつつけて頂かなければならぬ。

各組は、同じことをしてはゐない。しかし、離れてゐない。一つの幼稚園の組々として、統制のある獨自を持ててゐる。保育は一定の原理に基づけられてゐるが、その實際は、どこまでも、姫姫その人の創造によるものだといふのが、私達の信念である。

保育は、幼児を保姆の計畫の中へ押し込めて來ることではない。幼児達の生活へ保姆の方から赴き往くものである。しかし、それと少しも矛盾しない意味で、保姆の計畫と、工夫と、考案と、準備とによつて、幼児達の生活を一層生かしてゆくのが保育である。私達が、無計畫保育をしてゐるやうに見る人もあるかも知れないが、とんでもないことだ。我園の保姆諸君は、幼児を頭から虜にしやうとするやうな鬼でもないが、計畫と準備をなしに其日々がやつてのけられるやうな、神通力の所有者でも大膽者でもない。

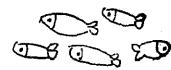
保育の計畫は、たゞ考への上の立案だけではない。況んや、紙の上に書いた保育項目の次第書だけではない。幼児達の生活が、そこから誘ひ出され、そこへ納まつてゆく、具象の實體で準備せられる。頭で計畫し、物で準備し、保育項目を放射させ、聚約させ、幼児の生活を、生活としての自由と必然とに生かしてゆくのが計畫である。個と群とを對象にして。

それにしても、生きた保育をするために、自分も刻々に生き、且、たえず創造してゆかなければならぬ心勞と身勞とは容易のことではない。しかし、さういふ保姆諸君こそ、刻々に保育の實際の味を味ひ楽しむことが出来る幸福な人であらう。尙、全體を通じて、左の如く御承知願つて置く。

月曜日	(五月二十三日)	曇後雨	火曜日	(二十四日)	晴
水曜日	(二十五日)	曇、風	木曜日	(二十六日)	晴、風強し
金曜日	(二十七日)	晴	土曜日	(二十八日)	曇

海の組(満五歳より満六歳)	男兒十八人、女兒十人	川の組(満四歳より満五歳)	男兒十八人、女兒十一人
山の組(右に同じ)	男兒十九人、女兒十人	森の組(右に同じ)	男兒十五人、女兒十五人
池の組(右に同じ)	男兒十五人、女兒十三人	林の組(右に同じ)	男兒十五人、女兒十五人

海



の

組

菊 池 フ ジ ノ

この組では、昨年春から、お人形のお家を中心としていろいろの仕事を進めてまゐりました。三月の學年末までにお人形のお家がまあ完成したと申しませうか、この四月からは、そのお人形のお家の外庭の方の仕事にかゝつて居ります。外庭の方は、先づ垣根を挿へ、犬と犬小屋、それから馬や牛や豚を挿へる豫定です。そしてお馬には馬小舎を、豚と牛には柵をめぐらさうと思つてゐます。それから大きな庭樹を二三本立て、その葉や花をみんなで挿へるつもりです。尚ほ之につゞいての計畫は澤山ござりますが、長くなりますが、こゝには申上げません。で、四月から只今までに垣根が出来ました。そして之にバラを這はせてゐます。このバラがまだ1位出来ただけです。それから、お馬も出来上りました。馬小舎は出来たばかりで、その中を塗るつもりです。それから豚は二つ出来た所、犬小屋も出来、犬は顔だけ出来、胴は今から作るところです。形が出来ると子供等は、塗り度いとせがみますのを、塗料の關係で今まで待たせてあつたので、今度塗る豫定に入れました。毎日午後にはこのお家の仕事を致しますが、都合によつて出来ない事もございます。之だけを申上げて、この週の日誌の不明を御諒解願ひ度いと存じます。

——編者由す。菊池氏の人形のお家に就ては本誌前號を參照されたい

豫 定

水曜

人形のお家——庭木の葉、作り
ぬりゑ けし

木曜

お唱歌
電車と汽車(新教材)
粘土
『明日の海軍記念日にちなみお』
人形のお家
『室にある軍艦を中心に戦艦を』

月曜
お唱歌
ひばり(野口雨情歌、室崎琴月曲)
お遊戯 フランスの王様(新教材)その他
お人形のお家作り
豚塗り、鳩のお家塗り、犬

金曜

お唱歌
立て繪——火燐石の木、人物の色塗り、
人形のお家
『おはなし(H實習生)火燐石

火曜

子供等との語り合ひ
自由畫(本校園藝場にてけしの寫生)
人形のお家

土曜

おはなし(N實習生)
立て繪——火燐石。木、人物の切抜き
人形のお家

その他 雨の日に——人形芝居

静かな日、折を見て——レコード演奏

五月二十三日（月）

何となしに雨をはらんだ空合。お室へ来てバスケットをお辦當戸棚に入れるなり子供等はさつさとお庭へ行く、一群はボール投げに、一群はブランコに、また四五人は實習科生のお庭掃きのお手傳ひに。

家塗り その中、今朝溶いて置いたそれぐの塗料が程よく溶けたので、先週中かゝつて作った箱の豚二匹（みかん箱に四隅から四本の足をつけそれに頸をつけ、頸をつけたもの）大小屋・鳩小屋が夫々の受持の實習科生によつてお庭へ運び出された。豚は薄桃色、大小屋は薄緑、鳩小屋は黄色に。つゞいて盥に浴いた夫々の塗料も運ばれたので、子供達は立ち處にそこへ集つて來た。

「塗らせて」
「塗らせて」

あつちからもこつちからもこの聲。代り合つてみんなで塗つた。この様子をアルバムの一頁に加へんと、急ぎカメ

ラに納めた。濟んだ人達は次から次へとシーソーに、滑り臺に散つてゆく。この間、實習科生に、五六人の體格検査未濟の子供を小學校の醫局に連れて行つて頂く。塗り終へてからお遊戯室に集る。

唱歌 ひばり、先週から歌つてゐた。この歌は、ハ調の今まであるので、そこを出すのに無理な子もあつた。自分でもして見てあんまり氣のりがしなかつた。思ふ様によく歌へる様になつたわけではないが今日でおしまひにする事にする。つゞいて遊戯。

遊戲 實習科生がこの間中お習した『フランスの王様』と云ふのを教へていただき。リズムに合せて動作をするので、歌は無い。今までのと變つて横列になつて進むお遊戯なので、子供は一入珍しがる。十人位づつ一列になつて、幾回にも分れてお習する。今日は大體の型だけをおぼえて貰つた。それからボートレース、汽車、飛行機、シャボン玉蝶々、スキップ等をいつもの様にする、

お辦當

午後は、おひる前に塗つた豚が乾いたので、傍で眺めていた園子さんに、薄黒で目を書き入れてもらひ、桃色で鼻を塗つてもらつた。男の二三人と女の子等はお人形のお家を中心におまゝごと。男の元氣な一團はボール投げに餘念がない。やがて一時二十分頃になつたので、各團を廻つて今週はお外のお當番である事を申渡し、お片附けに取りかゝつた。彼れこれ遅れて、お歸り一時半の所が一時四十五分頃になつてゐた。

五月二十四日（火）

昨日の雨ですつかり清められたすがく新しい新緑の朝。

子供達の足も自づと外へ向く。一團はお砂場に、一團はブランコに、一團は右けりに、もう餘念がない。私は、どのグ

ループにも入つてゐない四五人の子供達と、一ヶ月許り

前に蒔いたねむり草の鉢植の、雑草ぬきにとりかゝつた。

「かうしてこの葉つばにさわつてどちらなさい。つぼみますよ」

と云へば、みんなは

「かういふ風に？」

ときゝながらさわつて見る。と、思ひがけなくも、シユーツ、とつぱむので、みんなのよろこぶこと一通りでない。一人來、三人來していつの間にか組の大部の子供が集つてねむり草に興がつてゐた。

その中、どこかの組で藤棚の下に机が運ばれて粘土が始められた。子供達の眼は一様にそちらに向いた。そして、「僕達も何か」と云つた様の表情が、かすかに動いた。では私は、

「海の組の方も本校のお花畠に行つて、けしの花を描きませうね」

と云へば、本校と云ふ言葉に惹きつけられた子供等は、「海の組本校、海の組本校」

と呼び出した。

一行は二十三人、初夏の、しかも雨後の強い陽を浴びながら、手に手にクレヨンとお帳面を持つて行く。今を盛りと咲きほこつてゐるひなげしの寫生——之が私の心組みだつたのである。

ひなげしは、園藝場の最も奥の所にあつた、その場所へと進んでる中、手前に薄く赤らんだいちごの、粒々として

ゐるいちご畑が目についた。子供等の興味は、俄然いちごに變更してしまつた。

「僕、いちごを寫生しよう」

快活な徹男さんが口を切つた。すると、

「僕もいちご」

「僕もいちご」

「わたしもいちご」

「わたしも」

と潮の押し寄せる如くに私に承諾を得に來る。

「けしにしよう」

と云つて、けしの所へ行つた人は僅かに五人だけ。

しばらくの間は靜肅が續いた。やがて、

「僕、出來た」

と云つて見せに來た。徹男さんである。上方にも根元

の方にも、もや／＼してゐる葉があつて、その間の葉に、ぐみの様な赤い實が左右相稱に六つばかりなつてゐる繪である。徹男さんと、も一度葉を上げたり下げたりして實のなり所を見たり、葉の形や、葉の出所を見直した。そしてま

づしながら餘白の方に鉛筆で書いて見た。

「うんうん」

ときいてゐた徹男さんは、濟むなり、直ぐそこへお帳面もクレヨンも置いたまゝ、シャスター・デジーの一面に咲き亂れてゐる方へ向つた。と、そこで一聲、陽氣なの大きい聲で、

「あぶがゐるよ!! 澤山ゐるよ!!」

と叫んだ。

と今まで黙つて畑を見ながら書いてゐた子供達が急にさわめき出して、

「出來た」

「出來た」

「僕も出來た」

と急に忙しくなる。ちやんとよく見て書けてるのが五六

人あつたが、大抵の人は葉の形、出方、實のつき所等をはつきり見てゐない。さつき徹男さんにした様に、出来るだけみんなと一緒に、又見直した。けしの寫生の人達は、どうにかよく見て描けてゐる。みんなは、私に見せさへすれば帳面もクレヨンも帽子もそこへ置いたまゝ、急いでシ

ヤスターデジーに飛び交ふてる花虹の方に向つた。

「僕一匹取つた。」

「僕三匹！」

と一時はお花の存在があやぶまれる程虹取りに熱中した。

「虹を入れる封筒を持つて来ればよかつたわね」

と云へば、

「いゝよ、僕紙に包むから」

「わたし紙に包むわ」

と云ふ。

「みんなで取つたのを幼稚園へ持つて行つて硝子の器に飼

ひませうね」

と云へば、それがいゝ、それがいゝと、益々一生懸命になら。

龍太郎さんが取つた虹を水蓮の鉢につけてやると云つて入れる途端に、ふと水蓮鉢の中のボーフラを見ついた。そこへ三四人の子供もかけつけた。恒幸さんは、

「あゝ根切虫が居るぞ」

と云ふと徹男さん

「馬鹿云ふな、ボーフラぢやないか」

と云ふ。ボーフラを知つてゐる人があるかしらつと思つてゐたのによく知つてゐた。それから私は、ボーフラは蚊の赤ちやんであること、汚い水に生れること、時々面白い恰好をして浮んで來るのは、息をしに來るのだと云ふ事等を話した。子供等は聞きながら暫く見入つてゐた。こゝへいぢごの後も尚ほ寫生を續けてゐた四五人がやつて來た。そして、

「僕の書いたお花を見せて上げるからこゝちへいらつしやい」

と云つて私をひつぱつて行く。そして、

「かさ～～して～～とても面白～よ」

とさわつて見せる。

「何と云ふお花？」

ときく、私は

「貝殻草よ」

と云つて一緒にさわつて見た。茂さんは自分で帳面にカヒガラソウと書いて、之はこの花、これはこの草と一々説明する。こゝへボーフラの所の連中が後から後からやつて來て一様にさわつて見て興がる、それからみんなで花畠

をあるいた。麥があつた。麥を知つてゐる人は無いだらうと思つてゐたのに徹男さん、

「先生これ麥だらう?」

と云ふ。

「えゝさう、よく知つてゐらつしやるのねえ」と云へば、

と云ふ。

「そうさ僕田舎へ行つたんだもの」と答へる。

「皆さんのお家で麥御飯召し上らない?」ときくと、明雄

さんが、

「僕の家麥御飯だよ」と云ふ。

「その麥はこゝの所よ、それから輪通し等に使ふあの麥わ

らはね、こゝの所をよく乾して色々の色をつけたのよ」と

云ふと子供等は、こつくりと頷く。それから空豆を見、て

んとう虫を二三種取つて、いつも兵隊ごつこをする本校の

丘へ行く。行きつくや否やすぐ、兵隊ごつこが始まる。

今日は武器なしの兵隊さん達だ。片手を廣げてドン／＼

ドンと云ひながらかけて歩く。この手にさわつた人が戦死するのである。バタ／＼と二三人の人が忽ちクローバーの草原に倒れる。誰か「赤十字! 赤十字!」と叫べば、軍醫

お辨當。

午後は、子供等は夫々思ひ／＼のグループになつて遊ん

にされた茂さんが、そこに居合せた三四人の女の子を看護婦にして介抱に行く。看護婦さんは手をさすつたり、肩をさすつたりして介抱する。その中、重醫さんが「いゝんだよ」と聲をかけると、戰死者は莞爾として起き上り、次の

戰争に加はる。かうしてもの、三十分も遊びは續いたであ

らうか、その中、何やら軍醫さんを中心にしてさかひが起つた様であつた。みんなは茂さんに草の葉っぱをぶつつけた

りして挑戦し始めた。私は切上げはこゝとばかりに、

「さあ、お辨當のお時間になりましたから幼稚園へ歸りませう」と云つて、クローバー摘みに夢中になつてゐる人達、

クローバーの寫生に耽つてゐる二三人を誘つて歸つた。

強い日光に射られて子供等は疲れたのであらう。取つて來た、虻やてんとう虫を入れた硝子器の周りに、腹ん這ひになつておとなしく見てゐる。私はお辨當のお仕度に取りかかつた。子供等は一人立ち一人立ちして、馬小舎からお馬を引き出してお馬乗りを始めた、小馬も、大豚も、小豚もお尻に鞭あてられてゐた。

でゐた。女の子の四五人は例によつてお玄關で石けり、男のおとなしい五六人は賣店への瓦り廊下でかくれんば、男の元氣な七八人はお砂場で。

次いでお片附け。

お歸り。

今日は寫生に行く前に子供等との語り合ひをする豫定であつたが、子供等の顔に動いたかすかな表情をつかまへてお繪書きを始めたので、この機會を得ずしてしまつた。併し語り合ひの内容は、自分の心持ではお花畠で子供等の見た、語つた事共も含んでゐたので、悔いはしない。

五月二十五日（水）

風強く落ちつかぬ日。

實習科生が拵へて置いたのであらう。衝立にかけてあつた五六組のやじろうべいを、朝、お室へは入るなりすかさじ發見して大悦び。おつむでも立てられると、誰かゞ自慢すると、いや、指先でも、爪先でも、お鼻の上でも出来ると自慢の仕返し。朝のしばらくは、これに打興じる。私は昨日用意して置いた、緑の模造紙の二枚貼り合せたのを出して

椿の葉を切り始めた。やじろうべいに見惚れてゐた五六人は、「何するの？」とよつて來た。

「あの太い木（お人形のお家の庭木）の葉にするの、手傳つて頂戴、椿の葉よ」と云へばみんなは喜んで鉄を出しに行く。

「かういふ形？」「これでいい？」と口々に聞くので、お庭へ行つて椿の小枝を取つて來て、机の上に置いた。みんなはそれを見て切り、おまけに、葉の眞中から縱に二つに折つた。葉脈の所で折目についた様になつてゐるのを表はしたのであらう。それから女の子は、バラの葉も拵へると云つて、（お人形のお家に垣根をこしらへ、それに花をつけた）作り（バラを道はせた、今漸くすばかり出来たところ）始めた。（針金四寸程の長さに緑の紙を巻いておく。子供等は之につけた葉を切り、之を二枚糊で合せながら針金に左右につける）七八人の男女の子供達はこちらにはお構ひなしに、お人形のお家の、お馬や豚や垣根を、好きな所に並べ代へて、自分等が乗つたりお人形をのせたり、お家へはいつたり出たりして遊んでゐる。やじろうべいの一團も流石にあきたのか、それを机の上に置いて、椿切りにやつて來た。しばらく切りつゝける。やがて、もうおしまひ、と云つてみんなは去つた。次いで私はお人形のお家の人達を誘つた。

「懐！」とにべなく断られた。「あらメリーさんはね、よくこのお家に手伝つて下さる方だけがお遊びにいらつして下さい、と云つてましたよ」と云ふと、仕方がないと云つた表情で鉢を出して來た。そしてほんのあ義理に、三四枚の葉を切つてはまた、元の遊びに歸つて行つた。お仕事の跡を片附け、今朝用意した、けしの花の花瓶を子供等の机の上に置いて、私も子供等の後を追ふて外の空氣を吸ひに出た。見ると、元氣な一團は、龍太郎さんのリーダーの下にかけつこ最中。他の五六人は茂さん指揮で賣店から小學校の校舎にかけてかくれんぼ、女の子の四五人は例によつて石けり、ずうつと幼稚園のお庭を一周りしてまた私はお室へ歸つて來た。時に十時十分過ぎ。丁度こゝへ、○○○さんが例によつて「みんな僕を入れてくれない」と訴へて來た。この人は、豪傑組からは除外されるし、と云つておとなしいグループへもは入れず毎日ベソをかいでは不平をかこつ人である。或る日のこと、七八人がお砂場に大きなトンネルを作り上げて、今から積木の汽車を通さんと意氣込んでる時、突然そのトンネルを崩して「止ーした 今度はお團子作りをしよう」と叫んで、そばの茂さんから「〇〇ちや

ん懐だなあ！ 君、そんな事するからみんなから憎まれて馬鹿にされるんだよ」とたしなめられてゐたと云ふ。又或る子は「〇〇ちゃんは生意氣だから嫌ひさ」と云ふ。嫌ふ子供等にも理窟があるかと思はれる様になつた。で、この頃はこんな言動を見る折々に宏ちゃんをたしなめ、同時にこのグリープ外の他の人達と遊ばせる様努めてゐる。筋は大部とんだが、宏ちゃんの不平を聞いて、折柄お室へは入つて來た義雄さんと二人に「けしのなりゑをなさらない？」と云つた。二人は快く「うん、しよう」と云つてお帳面を出しに行つた。そして3の字のお帳面？ 2の字のお帳面？ ときいた。(ねりゑの二號と三號を各々に備へておくので) 2の方と答へておくと、さつさとお花を園んで始める。こゝへ、人形のお家から三四人出て來て加はる、又三人加はる。しばらくしんとしてゐる。——もう先に塗り始めた人達は「出来た」—出来たと見せに来る。塗り繪は誰もが大好きで、よく塗れる。時々筆を忘れたり、花びら一つ位を忘れたりする。こんな時「こゝは？」と聞くと、子供等は、「あゝさう」と直しに引き返す。

て來園された、こゝの組のお子さんのお母様がいらした。今

朝九時に見えられたので、只今お済みになつたところであ

る。今日伺ひに來られた點は、この組へ來ていらつしやる

お子さんは、このごろ非常に物に凝り出して、自分のやら

うとする事柄ですと半日位没頭するし、夜などであると益々眼が冴えていつまでも眠くならない、いろへ止めさせ

せる様に努めて見るがどんな事してもまぎれない、あたり

の人は、今の中からこれぢや、もう神經を費ひ盡して父親

の様に（早世された）なつてしまふと心配して呉れる、果

してどういふ風にしたらいいものであらうか伺ひ度いと云ふのであつた。先生から教へて頂いた事をあれこれと私に

話なすつたので、私も子供を見ながら伺つてゐた。ふと見

ると、かけつこから滑り臺に轉じてゐた一團が、いつの間

にかは入つて來て静かに塗つてゐるのである。この人達は

塗り終へると、又馬乗りを始めた。女の子の三四人は、さ

つき婆やが配つて行つたお机バケツ、お盆ふき桶から、夫

々巾布を絞り出して、お仕度をしてゐる。十一時半も過ぎ

てゐたので、私もお客様とお別れして、お仕事の後を整

理したり、この人達に手傳つたりして間もなくお辨當にし
た。

午後は、三四人の人達と私とは馬小舎塗り（緑色）他の
人達は夫々思ひ／＼の外遊びをなす。

明日の準備——明日新しくするお唱歌「電車と汽車」の

繪と歌「片假名」とを黒板に書いて置く事、之は實習

科の仕事としてHさんに當る。

五月二十六日（木）

来る人、来る人、目新しい繪と歌が黒板に書いてあるの
で、誰でもがそばへ來ては、繪をよろこび、歌を廻つてよ
む。いつの間にか十五六人はお遊戯室でお相撲を始めてゐ

た。土俵なしのお相撲故、私はこゝに附ききつてゐた。二

三人の男の子と、女の子の大部はお人形のお家遊び、—

今日は買物ごっこである。伊勢丹や松坂屋へ行つていろんなものを買つて來る。——たゞそれだけの事なのに、大變

喜んでみんなで出たり、は入つたりしてゐる。
九時半過ぎ、ピアノを開けて「電車と汽車」の歌を彈き
出したら「海の組お遊戯かい？」と、いつて二三人はお人

て來園されたので、只今お済みになつたところであ

形のお家に遊んでゐる人達をお迎へに、他の二人程は、お外で小さい組と遊んでいた園子さんをお迎へに行く。みんなが集まつてから、この歌を二三度弾いたら一緒に歌ひ出した人もあつた。「この歌知つてゐらつしやる？」黒板に面白い繪が書いてあつたでせう、あの歌よ」と云へば「も一度見て來る」とみんなはお室へ引返した。それからピアノ無しで歌だけを「チン／＼チン／＼デンシャサン」「オマヘホントニイサマシイ」「…………」と口ずさんで見る。子供等も喜んで一緒に云ふ、歌詞が説明なしで了解が出来るのは一番わけもなくおぼえてしまふ。それから又

今の様に「ゴットン／＼キシャサンハ」と一番も二三度口ずさむ。之もわけなくおぼえる。それから一緒に三四度ピアノで歌ふ。伴奏をつけても惑はない。次にの方だけ、次に男の方だけ。次は一番の電車を女兒、二番の汽車を男兒代つて一番の電車を男兒、二番の汽車を女兒と云つた風に、都合四五回も繰り返したであらうか、もうおぼえてしまつた様だ。それから「一人で歌へる方？」ときいたら大變な志願者である。一三人づつかためて一互り又歌ふ。それから前の「ひばり」の歌を一度ばかり歌ひ、つづいてお遊

戯に移る。こゝへ、研究科の支那留学生さん来る。時々はいつて一緒になさる。

お遊戯は始めにこないだの「フランスの王様」をした。やつぱり十人位づつ一列になつて。少し忘れかけてゐたが二二度したら思ひ出して、喜んとする。たゞ／＼しい恰存で、ちつとも勇んだ様子でもないのでとても嬉しいと見えて、わざ／＼列から離れて、「僕これ大好き」と注進に來た人が二三人ある。リズムがゆつくりしてゐて、堂々と進む所が氣に入つたりであらうか。これがすむとまた子供等の好むものを七つばかりする。

お遊戯が済んでお室に歸る。お遊戯室にはいる前にお粘土と板とを用意して置いたので、子供等はそれ等を見るなり直ぐ「お粘土だ！」と各々の抽出しまで、粘土べらを取りに行く。

「何でもいゝの？」

「好きなもんといふんせう？」と口々にきく。

「さうね、あしたは」と云ひかけて研究科の方のいらつしやる事に気が付いたら、あとは出て來ない。一寸もじ／＼したが、もう簡単に云つてしまつた。

「あしたは海軍記念日ね。ですからみんな軍艦を作りませうよ、そしてこの軍艦（お菓子屋で出してる精巧な厚紙の軍艦）の周りに、ずっと浮かして走らせませう。それから東郷大將も作り度いなあ」と。

「出来ないなあ」「六ヶ敷いなあ」と四五人は云つてゐたが、それでも殆んどの人は軍艦を造つた。いろいろの軍艦があつた。精しいのも簡単なもの。大きいのも小さいのも。

之を机に一列に並べて、其間に大きなお室にあつた軍艦を中心にして並べて見た。時間があつたらそれにつゞく黒板

にもこれの延長を描いて貰ふ積りであつたが、遂其機を得ずには急ぎお辦當のお仕度に取りかゝらねばならなかつた。

午後は、男の子等は櫻の木の毛虫を發見してそれの退治に大わらわ、女の子等はお人形のお家で遊ぶ。

明日の準備——明日する豫定の火燧石の繪を略寫版です

ること。昨日する筈の所、器があいてなかつたので、序に一寸御紹介して頂く、アンデルセンの火燧石を三週間ばかり前に話して見た、大變によろこんだ。その時、フト魔法のお婆さんと兵隊さんとが穴のある大木を背にして會つてゐるところを立繪にしてはと思ひ

木を背にして會つてゐるところを立繪にしてはと思ひ

五月二十七日（金）

今日は二月以来ずっとお休みであつた裕久さんが來られた。子供達はなつかしがつてみんなにこゝして寄つて来て、下駄箱はこゝ、お帽子掛けはこゝと、手を取つて小さい組の時と變つたと教へて歩く。お庭へも手を取つては、連れて行くと云ふ有様。——と云つてこの人はよち／＼さんでは決してなく、豪傑組の一人である元氣旺盛のお子さんであるが。長いお休みに、吾が子は如何にと案じて送つて見えられたお母様も嘸かし御安心、お嬉しく入らしつた事と思ふ。

九時過ぎ、みなさんの揃つた、そして静かな頃、實習科

の方を宿題にした。それが出來たのである。今週も一度お話を繰り返していただく事にした。それは六七本の大木——穴のある大木も——を立てゝ森を現はし、その中に途をもつける、その途でお婆さんと兵隊さんがお話してるのである。で都合六七本の立木と、魔法のお婆さんと兵隊さんの二人物を刷るのである。

生のお話が始まつた。「火燧石」のお話である。このお話

は三週間程前自分が一度した事があつたので、お話の先々と供達の心が進んで、暫しは騒然としてゐた。こんな場合の前以つての制し方を、實習科生に授けて置かなかつたのが自分の失敗である。が、やがて静かになつた。このお話は分るかしら? と思ふ様な幼い子供にでも、よく了解されてゐるらしく、お話が済んだ後、思ひ／＼してはボツリボツリと語つてゐた。

お話が済んでから、實習科生が持へて置いてある火燧石の立繪をみんなに見せた。みんなは、こないだから作り度いと云つて(置いてあつたのを見て、火燧石の魔法の)ゐたのでよろこんで賛成した。でも之は小人數づ念入れに塗つて綺麗に仕上げて貰ひ度いと思ふので、初めの方だけそのまま居残つて塗ることにした。女の方達は、とり分け塗繪が好きで、又綺麗に塗るのが常であるが、今日はまた特別熱心でいつも仕事半ばで、どこへか姿を消す○○子さんまでが、私達が驚いた程の熱心振りを發揮し、一氣か勢に、しかも丁寧に塗り終へた。

男の人達は二人の實習科生と、お砂場での幅飛びに、お

相撲に、またはかくれんぼうに夢中である。

やがて女の方と交代した。男の方達も熱心である、がおしまひ頃に、少し飽き出した人が出て來た。お辨當に間も無い頃なので、飽きた二三人は明日に延した。

お辨當。

午後はブランコ遊び、虫退治等に吾を忘れて遊ぶ。

お片附け。

お歸り。

五月二十八日(土)

朝来るなり、四五人はお砂場へ。五六人は實習科生と鬼ごっこ、その他の人達は、實習科生二人ばかりが、昨日皆さんのした立繪を整理していらした傍へ行つて、塗り終へなかつた分を塗り足して居れば、又昨日塗つたのを早や切つて、假に立て、喜んでゐる人もある。一人加はり二人加はりして、おしまひにみんなが昨日塗つた人物と木を切りにお室にはいつてしまつた。切りにくい所に、小刀で切目を入れて頂いたりしながら、暫く静謐が續いた。かなり書き入れて頂いたりしながら、暫く静謐が續いた。かなり

澤山あるのに、みんな切つてしまつて立てゝ見たいと意氣

込む人も居る、と思へば、もう飽きた！とへこたれる人
もあつた。體の弱さうな人はさもある事と月曜まで延して
上げたが、さうでもない方は、少し手傳つて上げたり助言
して上げたりして、大抵は切り終へた。

この頃お室の一隅では、實習科生の指導の下に、お人形
のお家のストーブの前の衛立(もう暑くなつたのでストーブ
蓋する)（アモモ要らなくなり、それを
衛立する）のお繪描きが始められてゐた。——三人代り合つ
て。他の隅の方では鳩小屋の主人公（先週鋸ミシンで切つ
た木の鳩）の彩色が二三の子供相手に進められてゐる。

お庭では今日ももう毛虫退治が始まつたらしい。大騒ぎ
をしてる聲がきこえる。女人達は相變らず石けり。

その中十一時頃になつたであらうか實習科の先生のお話
が始まつた。子供等は「海の組おはなし！」と聞くと飛んで
行く。之を見ると、あんなに亂暴な人達なのにと嬉しくな
る。お話は「目づぶし」と云ふのである。初めてゞ、しか
もお歸り間際の何となしにさわめて居る環境だつたの
にその割には子供達を惹きつけ得た。一つが済むと、もつ
ととせがんだ。併しお歸りの時間十一時半も迫つてゐたの

で大急ぎお片附に移つて、やがてお歸りにした。

今週は天候に恵まれて、雨の日に入れやうと豫定して
ゐたレコード演奏も一度もしなかつた。人形芝居も一度
も見ないでしまつた。

日本幼稚園協会夏期講習會

本年は特に、音楽協會新編になる新幼稚園唱歌につ
き、其のうたひ方と新作の遊戲につき、最も新味あ
る内容を提供するものであり、多數諸君の御來會を希
望します。

詳細は本誌廣告を御覽願ひます。

山

の

組

徳久孝子

謙

定



月曜日 金蓮花の手入れ

歯の治療（一部分の人）

遊戯 チルドレンボルカを新しくする

自由畫、寫生 本校に行きニコライ堂を描く

火曜日 切紙（觀察）雛芥子の花

唱歌 牧場の羊

午後 自動車製作の續き

水曜日 自動車の色塗り

クッション製作、クレオン染

お話 芥子粒夫人

木曜日 牧場の羊製作（色塗り）

遊戯 チルドレンボルカ

金曜日 海軍記念日

五月二十三日（月）

五月にしては少し蒸し暑い日であつた。

朝グラジオラスと鐵砲百合の花をお室の花瓶にさす。昨日一日の間にお庭の椎の木の葉が一ぱい落てしまつたので早く來た四五人と一緒にお庭掃除をはじめる。子供達は自分の背よりも高い竹箒を扱ひにく相にしながらも一生懸命に掃き集める。忽ち彼處、此處に木の葉の山が出来る。其の時藤棚の下の所に大きな蚯蚓が一匹「あッ、蚯蚓だ！」
「龜さんにやらうよ」「うん、それがいい」と男の連中は

土曜日

牧場の羊製作の續き（切り抜いて臺紙につけ、柵や花を切つて立てる）

お話（實習生）

黒板に海の畫を描く
軍艦製作（粘土で作る）

大喜び、早速棒の先に引掛けて林の組の龜さんを持つて行く。後から筆をかついだお供がぞろく。暫くして歸つて来たが龜さんはお腹がよいのかな／＼喰べないと如何にも不満相。庭掃除の方は實習科の方にお願ひして金蓮花の手入れをする。四月二十一日にめい／＼一粒づつ蒔いた金蓮花が一人残らず二本づつ芽が出て、今は五寸位になつた。蒔いた翌日の朝先づ第一に「もう芽が出た」と聞いて居たが今はお花の咲くのを待ち焦れて居る。まだ一鉢に二本生えて居る方があつたので、土を篩つたり、お砂を運んでまぜたり、鉢の穴に丁度よい石を見つけたりしてやつと移植する。それから各々の鉢の雑草を抜く、「先生これ抜いて」と一々聞くのでなか／＼忙しい。

松葉牡丹も、もう樂に雑草が抜ける程大きくなつた。「先生なぜ此の草抜いてしまふの」と此の頃めつきり質問を仕初めた東音さんの間にはすかさず榮一さんが「僕知つてら、これ抜かないと金蓮花が大きくならないんだよ、僕んちのお父さんも菊をこうするよ」と説明して居た。丁度園藝の先生がお見えになつたのでもう肥料をやつては如何かと御相談する。「もうよろしい」との事に早速バケツと柄杓を持

つて油糟を戴きに裏庭に行く。油糟を汲む時、「汚いね、あつ臭い」と鼻をつまみ出したので「あら汚くないのですよ」これはね皆さんの母様が頭へお付けになる油の糟ですもの」と先生が教へて下さる。「そう、ぢや臭いだけで汚くないのね」「え、そうです共」これを水で薄めて葉に掛けない様に、多過ぎない様に、と注意して一人づゝ自分の鉢に掛ける。

遊戲 出して引込めて、飛行機、大工さん、ものまね、アイシーユウ、チルドレンボルカ（以上律動的）、曲り角、お馬のけいこ（以上表情）スキップ。

今日は元氣な裕さんが居ないので一體に何だか元氣が無い。ものまねは今日は先生がリーダーになり、郵便屋さんお父さん、蛙など題を出して見る。郵便屋とお父さんのものまねは少し困つた様。チルドレンボルカを新にして見る。小さい組の時に大きい組のなさるのを見て居たので直ぐに出来た。スキップは三人づつでして見る。三人が氣持を合せ足を合せて揃へるのはなか／＼むづかしい。

寫生 終つてから各自帖面とクレオンを持ち正門前へ寫生に出掛けた。途中花壇には雑芥子、紫蘭、花菱草、三色

董等色とりくへ咲き亂れて居た。薄烟には董も赤く熟れて居て、皆叢し相に「あツこゝにも」「こゝにも」と赤いのを探す。正門前のクローバーが青い毛氈を敷きつめた様になつて居るので、其の上に坐つてニコライ堂の寫生をする。「僕ニコライ堂いやだなあ、自動車でいゝ?」と相變らずTさんは顔を擡めて言つて来る。皆落着いて、水色に黒色にクレオンを帖面に走らせて居る時、誰かゞ「あらツ、雨よ」と云ふ。本當に雨だ。ポツリと雨は落すく降り出して來たので、残念ながら中止して馳け足で幼稚園に歸る。

お買物 お食後、和雄、よしこ、東吾、孝の四人は實習生二人に連れられて、自動車のドアを付ける蝶番及ハンドルを買ひに金物屋に出掛ける。「行つて参ります」と如何にも嬉し相。他の子供はお砂場で遊びながら、お使の方の歸りを待つた。

五月二十四日（火）

早く來た和雄さんと一緒に、花壇の雛芥子の花を切りに行く。今日切紙にしたいと思つて。咲き揃つた真紅の花が

すがくしい五月の風にゆれて居る。鉢を持つたまゝ、じつと眺めて居ると和雄さんが「先生芥子の花真赤だね風にゆれて落ち相だねえ」と言つた。立派な詩だと思ふ。

お室のコップに器皿の花をさして、早く來た方から切り紙を始める。赤黄綠茶等の色紙を入れた箱と、屑紙を入れる象の形をした箱をお机の中央に置き、自由に入用の紙を取りつて切る。誰れも先づ赤い紙を取つて花を切り、次に葉、葉といふ様に切つて行く、切り込んだ比較的細い葉がかなりむづかしいらしく色々と工夫をして切つて居る。切れた方は一人で糊を付けてお帖面に貼り、今日の日附及びヒナゲシと字を書いた。誠さんは珍らしくお花を四つも切り默々と一生懸命に作つて居た。睦子さん、東吾さんはどうしたのか何枚か切つても自分に満足した花の形が出来ないと見えて、机の上を赤い紙だけにして居た。邦子さん榮一さんは、いつもながら花も葉も細い所までよく觀察して作つて居た。

自動車のドアの蝶番ひを昨日買つて來ていたので螺旋廻しで付けたら、どうやら形らくなつた。子供達の喜び方は悲常なもので、朝から入れ代り立ち代り乗つて居

る。小さい組の方もお客様に見える。

「どちらまで参りますか」「満洲まで願ひます」と林の組の豪傑五郎さんも澄して乗つて居る。「ハイ、かしこまりましたブーウーーーー」一種特別の聲を出してブーウー言つて居る。まだハンドルも付かず、白木の自動車でもこんなに喜んで呉れるかと涙ぐましくなる。

早くライトもハンドルも作り度いと思ふ。孝さんは近くに

自動車屋さんがあるとの事でなか／＼よく知つて居る。運轉臺から一寸首を出して、

「如何です、お乗りになりませんか」

「百哩いくらで行く」と榮一さん、

「そうですね、いゝです四十錢で行きませう」

「ぢや頼むよ」と榮一さんが乗り込む、都會の子供はもう値切つて乗る事を知つて居るのに驚かされる。

思へば此の自動車もよくこゝまで來たものだ。子供が自由に乗つて、遊べる様にと思つて木で作り始めたのは此の學期の初めであつた。設計をしてさて取りかゝつて見ると思はぬ所で板の厚さを考へずにして合はなかつたり、板が割れたり、一時はあまりにも望が大き過ぎて到底自分達の

手に負へる事ではないかとさへ思つた。然し折角始めたのだからやり通そうと頑張つて此處まで來ただけに、喜びは子供は勿論、私達まで非常に大きい。三輪車用の大きい車を二個づつ前後に付けてそれに太い心棒を四本縦に入れ、長さ六尺五寸、巾三尺五寸、高さ箱だけ約三尺三寸の大きさにした。定員五人位の積りであつたが子供は八人位乗つて居る。

藤棚のあの美しい綠に誘はれて今日も亦藤棚の下でお辨當を頂く事にする。皆大喜びで莫薺。お盆。お含嗽道具。

楊子掛等を外に運び、四枚程莫薺を敷いて其の上に圓く坐つて御辨當を頂く。晃さんはお父様の眞似とあぐらをかいて居た。時々遅れ咲きの藤の花が散つて皆を驚かせた。

食後も自動車遊びが續いて居た。私は其れを氣を付けながらそばでヘッドライトを作る。ブリキの空罐の大きいのを二つに切り、前の所は圓く切り抜いて内へ折り曲げ、

自動車につく方は少し切り込みを入れてつぼめた。上へセルロイドの厚いのを硝子代りに張る。五六人の子供は「それ何になるの」と云ひながら一生懸命に見て居た。今日は牧場の羊の唱歌をする豫定であつたがあまりよく遊んで居

るのでそつとグリーンボールドに歌だけ書いておく、美喜子さん、睦子さんは、レコードで知つて居ると、唱つて居た。

五月二十五日（水）

昨日に引續き自動車は朝から満員續きである。殊に今日はよく動かせる位置に置きかへたので尙更大變、定員を六人といふ事にきめる。

自動車のクツシヨンを作り度いと思つて皆で其の模様を考へる。描けたお帖面を見ると、チューリップ、桜、玉、渦、巻等が多くいつもの様な自動車、汽車等は一つもない。模様といふものに、花が隨分大きな位置を持つて居る事と思ふ。榮一さんのチューリップを交互に配置したもの、和盛さんの線と色だけで可成り澁い色取りを見せたもの、喜久子さんの水蓮等は中でもよいと思つた。季節柄でもあり喜久子さんの水蓮を書く事にして、昨日買つて來た布地を机の上に張り、の方に二人づつ交代にクレオン染のユウゼンクレオンで書いて頂く。負け嫌ひのM子さんは一番先に一番先にと云ふのでジャンケンで番を決める。相にく一番

びりになつてしまつた。大いに不服らしい顔付きで「いや、わよ、びりだつて、上手な人は、後で書くのよ」と云て居た。クリーム色の地に、赤と黄の水蓮、緑の葉がよくうつた。今晚蒸して来る事をお約束する。

唱歌、昨日出來なかつたので折りを見て牧場の羊の歌をする。始め簡単に歌の説明をする。「先生は僕んち、盛岡に牧場があるよ」先生「そう、羊居るの」「うーん、馬ばかりだよ、競馬にするの」「君乗つた事ある」「赤ちゃんの時行つたのだから、乗らなかつたの」お話の終るのを待つて、今日は一番迄唱ひ後、雲雀(チイチク)、お馬のけいこ、自動車、チューリップを唱ぶ、後二入づつで自動車を唱つた。つい先頃まで皆と一緒に坐るものいやだつた誠ちやんが、今日は哲子さんと一緒に前へ出て唱つたので本當に嬉しかつた。お友達も「誠ちゃん偉くなつたね」と嬉し相。自動車の歌は、鐵砲玉の様にもう行つちやつた」のもうと二拍引く所がどうも早くなり易い。

食後自動車の外塗りをする。自動車を外に持ち出して塗つつもりで居たが硝子戸がはずれないので止むを得ず中で塗る。下に莫産を敷いて、カゼインのクリームに濃い緑の

ラツカーをませ合せて、それを小さい入れ物に少しづつ分けて塗らせた。まだ塗料を溶かして居る頃から「僕に塗らしてね、僕にね」と大騒ぎ、エプロンに着けない様に又機かさない様にと、十分注意して塗らせたが、塗り始めるとき夢中になつて、顔まで塗料だらけになつてしまふ。白木の自動車が見る／＼中にグリーンに塗られて行く。「まるでベンキ屋の様だね」と誰かゞ言ふ。裕さんが「先生小さい組が知らないで乗るといけないからベンキ塗りにて御注意と書かうね」「そうね紐を張つて其の紙をつけて置きませう」裕さん、庸雄さん、昭雄さん等が半紙にベンキヌリタテゴチウイクダサイと書いて來たので紐をはつた所に糊でつけて置く。今日は外側だけ塗れた。「明日の朝迄に乾くかしら」と歸りのお支度をしながらしきりに心配して居た。明日乗れないつまらないと見えて。

五月二十六日（木）

朝來て見ると自動車は殆ど乾いて居たがまだすつかりと云ふわけには行かない。午前中位此の儘にして置かなければなるまい。乾かないと言つたらさぞがつかりするだらう

と考へて居るといつも早い國義さんが元氣よく「先生お早う、自動車乾いた」とお室にはいつて來た。

「まだ少し乾かないのよ」「ふん」とつまらな相な顔をして手でさわつて見て居た。次に來た榮一さんも「先生お早う」と言つてバストを戸棚に入れると直ぐ自動車の所に來てさわつて見る。早く乾けばよいと今まで思ふ。自動車に乗れないでの男の人達は兵隊ごつことを始める。長い積木を肩にして帽子を鐵冑の様に縁を下にさげて居る。此の項目出つて勢力家になつた國義さんが大將で大きい裕、榮一、晃、昭雄さん等を一列に並べて「氣を付け」「前へ進め」と號令をかけ、トツトトツトツトと遊戯室の方に進軍して行つた。兵隊ごつこには這入らない誠、東吾、道夫さんと一緒に羊の臘寫してあるのを塗り始めた。牧場の羊の唱を其のまゝに、すつと柵がめぐらしてある。牧場の緑の草の所で羊が遊んで居て、中には草にまじつて真紅な芥子を咲いて居る様な所を作つて見たいと思ふ。

お手本を作つて置いて見せると「これ作るのね、これ牧場の羊でせう」と言つて喜んで塗り始めた。いつもの塗り書きと少し異つて線のきわを薄く茶色で塗らせて見たが、薄

くといふ事は少しがちららしい。線に添つて茶の鉛筆で

又線を引いて居た人が大分あつた。兵隊ごつこの連中も一

しきりたつと飽きたらしく、「僕もする」と塗り出した。

塗れた方は一匹づつにお名前を書いて自分の御引出しに大

事にしまつて置く、六匹の羊を塗つたので今日は切らずに塗るだけにした。

早く出来て海の組を御遊戯を拜見して居た哲子ちゃんが

「先生御遊戯室があきましたよ。昨日も一昨日もしないん

ですもの」と鼻をならして來た。哲子さんはとても〜お

遊戯が好きで又得意、一度すると正確に覚えて如何にも樂

し相に目を細くしてして居る。「そうぞや今日はしませう

ね、丁度塗り畵も全部済んだのでお遊戯を始めた。お遊戯の

前に牧場の羊、雲雀のお唱歌を唱ふ。今日は試みに男の方と

女の方を分けて二つの圓を作らせてして見た。男の方がふ

ざけはしまいかと疑問を持つてして見たのにこれは意外兩

方共にお互に比較して合つていつもの様にふざける人も一

人もなくて實に愉快に出來た。兵隊、曲り角、ものまね、

大工さん、チルドレンボルカ、飛行機、お馬のけいこ、お

友達、ポートレースをする、暫くポートレースをしなかつ

たので喜んで汗のにじむ迄こいだ。

遊戯がすんでからお庭に出たが、朝からの風がかなり激

しくなつて來て折角のお天氣に思ふ様に遊べないのが殘念

である。風の爲に藤の葉柄が澤山に落ちて居たので其れを

拾つて龜を作つた。「先生僕にも」「わたしにげじ〜」と

片手に持ち切れない程拾つて持つて来る。「じや一緒に作

りませう」とやさしいげじ〜の方を教へる。榮一さん和

雄さんは二度ばかりですつかり分つたらしく一人で作つて

居た。まだ枯れて居ないので曲げても折れず、色も青々と

きれいで工合がよい。龜作りに忙しくてお辨當が一番おそくなつてしまつた。お机全部を一つにして中央に花を置き

ぐるりに坐つて御辨當を頂いた。

食後はあまり風がひどく、莫産も飛ばされてしまふので

お室の中でお家ごつこをする。此頃女の方は一團になつて

毎日お家ごつこを續けて居る。先學期中からつて一生懸命

作つた一人に一つづつのお人形を抱いて、お寝かしたり、

洋服をぬがしたり、靴をはかしたり、哲子さん等御半ヶチ

が無いと思つたらいつの間にかお人形さんがちやんと前に下がつて居た時もある。今日は裕さんが赤ちやんでの大き

な體でアーン、アーンと泣いて居る。美喜子さんがお姉さん「まあ／＼赤ちゃんどうしたの、そんなんに泣くものじや

ありませんよ」と大人の様な聲を出してなだめて居る。私もお客様に行く、暫くすると睦子さんと哲子さんが組の取り合ひを始めて兩方共險惡なお天氣になつて來たので「さあ小母さんが一つお話しして上げませう」と云ふと二人も組をほうり出して來た。お客様ごつこをして居なかつた連中も裏座の上に上つて圓く座つた。芥子粒夫人をする。高麗鼠が鼠に飽きて魔法使のお婆さんに頼んで色々の動物に變へて貰ふ、最後に御姫様になつて王子様のお友達になつて樂しく暮す中、或日お庭で鼠に會つたがそれは自分のお母さん達であつた、王子様に鼠だといふ事を見破られたので困つて逃げる時お池に落ちてしまつた。次の年其の池の廻りには御姫様のお洋服にも似た眞紅な花が一面に咲いた。

人々はそれを「けしの花」と呼んだ。といふ筋である。もう一つといふので森の時計をした。博太郎さんはお話の面白い所では實に朗に笑つた。森の時計の裏の目に入れたお月様のかけらから思ひ付いたらしく、孝さんが「先生、僕お月様の海に落ちたの見たよ」「そう、どこで」「田舎の海で

どぶんと云つてね。僕の顔に水がかゝつたよ」と云つた。

五月二十七日（金）

今日は海軍記念日である。宗久、榮一、和雄、裕さんにボーラードに海の畫を書いていたゞく、二人づつ共同して長さ一間位の大きな／＼軍艦を二隻上には水兵さんが軍艦旗に敬禮をして居る所を書いた。和雄、榮一さんの畫はいつも線がはつきりと力強く書かれて居る。次に「皆も軍艦を一隻づつ作りませう」と云ふと男の方は「僕、陸奥」「僕長門」「僕も長門」と口々に言ひ出しが女の方は興味ないのかだまつて聞いて居た。粘土で作る豫定で居たが、粘土は作るのはた易いがぢきこれるので何か適當な物はないかと考へて居た所、丁度自動車作りで木切れが澤山出來たので之れを利用して作る事にする。

雲一つない絶好の日和。早速お机を藤棚の下に持ち出して鋸、金槌、木切れも外に運び出し軍艦作りが始つた。木屑の箱の中から丁度よさ相な木切を探しては一生懸命トントンと打つた。釘を打つ事に大分慣れれたので、少しお手傳ひするだけで、大概一人で出来る。長さ七八寸、巾三寸位の

板の上に、巾丈共に少し狭いのを重ねて、上に小さい木切れでマスト、煙突、大砲等をつけるともう立派な軍艦が出来上つた。早速傍の砂場に浮べて遊んで居た。マストや大砲の細い部分はお菓子の空箱も細く割つて使ふと、釘も打ち易く又切り易くて工合がよい。出来たのは自動車に用ひたラツカーレの残りを用ひて上方を黒、下を僅か赤色で塗り、お机の上に水色の色紙を張つて、其の上に浮べた。實に壯觀だ。子供も非常な満足である。此の時庭の方を小學校の方が樂隊をしながら行進して來た。「ヤア樂隊だ」と皆大喜びで見に行く、小學校全部の方が手に／＼日の丸の旗を振りながら、「煙も見えず、雲もなく」と樂隊に合せての行進、本當に勇しい。子供達は手に軍艦を持つたまゝおぼつかない口調で一緒に唱ひながら續いて行く。小學校のお庭で堀先生の發聲で萬歳々々と三唱して分れた。お兄様方に旗をいたゞいたりして大喜びで歸つて來た。

女の方は先に男の方が軍艦作りをしたので其の間お砂場で賣り屋さんごつこを始めて居た、臺の上にお饅頭をすらりと並べたり、木の葉を澤山拾ひ集めてお皿にして芥子の花瓣を乗せて御馳走にしたりしてよく遊んだ。午前中は軍

艦作りで本當に忙しく過してしまつた。お食中の時は軍艦の所にお机を使つたので、一列にお机を並べて兩側に坐らなければ足りなかつた。「汽車の食堂の様ね」と百合子さんが言つて居た。食後はお天氣がよいので砂場とジヤングルジムで元氣に遊ぶ。和盛さんと宗久さん、積木を重ねてお家の様なのを作つて、さつきの軍艦を澤山並べて居る。「まあ澤山並びましたね」と云ふと、「これ軍艦の車庫だよ」と宗久さんは澄したもの。「宗久さん軍艦の這入つて居る所はドックぢやない」「うん、そうだ・ドックだ、自動車や電車は車庫だね」「おーい、これは今度車庫じやないよドックだよ」「こゝは海さ」と相變らず大きな聲で皆を指揮して居る。此の子は自轉車で足を怪我して二十日程お休みであつたが、幸ひ骨もどうもならずこんなに元氣で本當によかつたと思ふ。

お室にはいつてから軍艦マーチを二回唱つて歸る。

五月二十九日（土）

昭雄さんがお家から金魚を澤山持つて來て下さつたのでお庭のお池に放つた。「僕の家ね、あさつて引越すの、今

度のお家ね、お池が無いから幼稚園にあげるの」と、いつも朝はしぶ／＼お母様を離れる昭雄さんが今日は大元氣だつた。

木曜日に色だけ塗つて置いた牧場の羊を、めい／＼お引出しから出して切り抜く。次に牧場の柵を畫用紙に書いて切り抜いた。牧場の柵といふものが都會の子供には親しみが少いので描きにくいらしく、大概お手本を模倣して居るに過ぎなかつた。今日は此の外にお庭に行つて芥子の花を見て書き、切り抜いて、羊や柵と一緒に菓子の空箱の蓋の上に立たせる豫定であつたが、羊を六匹切り抜いたので疲れたらしく見えたから、お花や木を切る事と立てる事は

月曜日のお仕事にした。出来た方は袋に入れてお名前を書いて置く。自動車の内側と中の椅子がまだ塗れて居ないので今日はカゼインのクリーム色で女の方に塗つて貰ふ。此の間「男の方ばかりに塗らして」と大不服であつた美喜子さん百合子さん大喜び、「あー嬉しい」とお椅子と運轉臺を外に持ち出して塗る。ラツカ一の様に仕末が悪くないので樂に塗れる。塗る方を實習科の方に見ていたゞいて、私は四五人の男の方とハンドルを作りにミシ鋸のお室に行

く。お盆の古いのを利用してハンドルの型にミシン錐で切り抜いた。軽い「ゴシゴシ／＼といふ音を立て、お盆がハンドルに變るべく切られて行くのを子供達は面白相に見て居た。切れたのを黒い色に塗り、丸い心棒を通して、自動車を取りつけたら、立派なハンドルになつた。塗り屋さんの方も出來上つたので皆で後作る物の御相談を始める。

「さあ、ハンドルもライトもクツショーンも出來ましたね。後何を作りませうか。皆で考へて書いて見ませうね」と云ふと、真先きに國義さんが。

「後につけるタイヤ」といふ。

「番號札」

「泥除けもないとお巡りさんに叱られるよ」と孝さんが言ひ出す、次々と子供の言ふ物をボールドに書いて見た。

「中に飾る花瓶とお花」

「後に下げるお人形」が女の方から出る。

「ラッパ」

「前につける旗」

「ガソリン入れる所」

「後の燈」等々澤山に出て来る。よし子ちゃんが静に「乗る

所にお家の紋が付いてるわね」と云へば榮一さんが大きな聲で。

「それからガソリンポンプ」と云ふと、裕さんが

「うんそうだ／＼ガソリンが無くちゃね」と如何にもよい思ひ付きだと言つた風に、榮一さんに顔を向けて、にこ／＼と笑つた。すると喜久子ちゃんが、

「ガソリンガールにあたしなるわ」といつたので皆「ワアーッ」と大笑ひした。

「もう無いかしら」「睦子さんが」

「先生、ゴーストツップも欲しいわ」と言ふ。

「僕其のお巡りさん」と孝さんが勢ひよく立ち出ると「僕も」「僕も」と忽ちお巡りさんの志願者が澤山に出来てしまつた。

「それじや來週はこういふのを作りませうね」と賑やかな御相談會を閉じて、昨日作った軍艦を大事相に持つてお歸りにした。

今週は自動車作りに忙しくて、お話、唱歌等をする機會をつひ失つてしまつた。來週は此埋合せをしなければならない。但し觀察整理は自動車遊びで大分出來たかと思ふ。

帝國教育會主催

保育夏期講習會

帝國教育會にては從來より諸種の有益なる講習を催せられてゐましたが、本年より新たに幼兒保育の講習をも開催せられることになり斯界のため喜びにたえません。

一、期　　日　七月二十八日より同三十一日まで四

日間、毎日午前八時より正午まで

一、會　　場　帝國教育館講堂

(神田區一ツ橋通り)

一、講　　師

(一) 幼兒保育

文部省督務官 森岡常藏君

(一) 保育法總論

東京女子高等師範學校 教授 附屬幼稚園主任事

(一) 幼稚園と小學校

東京女子高等師範學校 教授 附屬小學校主任事 堀 七藏君

一、會　　費　金　參　圓
一、申　　込　七月二十五日迄

川の組



神原キク

遊戯場であります。同時に、遊具は潤澤に具へておくことが必要です。

今週の計畫

斯様な考の下に、個別的に遊べてしまかも一緒になるともつと面白くなる好ましい遊具はないものかと考へましたのが、先週以來の計畫、苺の空箱利用の汽車と、まゝごと遊びの諸式を調へる事です。汽車は一箱宛持たせます。それを引きまわしても遊べるし、數人寄れば連結列車になつて愉快でせう。その間に積木を並べてレールを架けることを考へつくかも知れません。鐵橋をこさへる子もありませんか。併しそんなに遊びを構成出来ないかも知れません。ならば私共で一緒に作り出しませう。その内、積木でなく木で停車場や鐵橋、トンネル、ふみ切りを作つてやりたいと思つて居ります。其れ迄は今週中に行かないかも知れませんが。まゝごと遊びにお人形が入るとどんなに情味やはら出でよ！のみならず、此の目的から、戸外は最も満足な

入園以來四十餘日、漸く幼稚園でも家庭と同じ様に遠慮なく遊べるやうになつた所です。初め頃は子供ながら新世界に對する緊張、氣憚れ、氣兼ねがあつたのでせう。これでは餘り世話がかゝらなさ過ぎる、と存じましたものですがどうして〜この頃は大した激渉さです、そして物騒なことです。未だ協同生活に慣染みませんし、お友達との遊びが何より楽しいものといふまでの経験には達して居りませんから、意のまゝならぬ時は實に手早い直接行動と號泣です。こゝ一學期の間は、斯んな極く審的時代かと思ひます。非常に個別的で衝動的で、協同の作業やあそびは計畫するに甚だむづかしいと思ひます。それで、保育の一ねらいとしては先づ個別的な、自然的なあそびを十分にと、のへておいて然る後段々と友と偕に遊ぶ愉快を味はせる方法を取りたいと存じます。初夏のよき季節なる故に戸外に出てよ！のみならず、此の目的から、戸外は最も満足な

か味の加はることかと思はれますので、ローズ色のベビー服を着た可愛らしいマ、人形を土曜日に買ひました。お人形に附隨した諸道具を作ることでも一仕事あります。

これは計畫し兼ねることですけれども、今週は何とかしてHにお辦當を食べさせたい。幼稚園ではお辦當を食べないと今迄頑張り通して來た子供です。それから附添から離れぎはの悪い三四人のくせも直し度い。時日の問題かも知れませんけれども、實習生の居ない日この人達に泣かれています。

五月一十三日（月）

降り出しある不安な朝空、十一日に蒔いた朝顔がヒツ若芽を出した。窓棚から机上に下しておくる。莓の空箱に木車をつけたトロッコ汽車を、車庫なる室の隅から出して置く。八時頃に登園するのはA、早速列車に仕立てゝ引き廻して室内をかける。（紐で引き廻す様になつて居る次々に來る男兒は大抵これに加つて遊ぶ、女兒はお人形を代り合つてお守りして居る。室隅には一昨土曜日にレールや鐵橋に用ひた床上積木があるけれどもこれを取出して汽車のレ

ール建設に當らうとする者は居ない。只列車と共に走る。従つて一つの列車が争の種になり出した。其處で、降り出す迄は初夏の朝空の下で遊ばせたくもあれば外へ。お人形とまゝごとの臺所を持ち出し、花壇の方でゴザを敷いて先生がお母様、T・M・Jなど男兒がツクさんで、女の子達が人形を抱つこしてお客様。思ひがけない役割である。

おはなし、室内に歸つて。「幼兒のたのしむ話」中の、「指太郎」先達ての「富子さんの風船」程には興がらず。剪紙。長方形に剪つて貼りクレオンで車輪を描く簡単な汽車、（汽鬪車はお釜があるだけ違つてゐる）先生の手本を見せて剪らせる。鉄は殆んど使ひこなせる人達だけれども長方形に、しかも揃つた形、大きさ、といふのはなか／＼むつかしい。一連の汽車が出来上つた人へ「あなたの汽車はどこを通つて居ますの？」と尋ねて自由にバツクを描かせる。これは男兒が得意のものだけにドシ／＼、バツクが描ける、女兒は先生のと同じに出来上るのが多い。

食後。砂場で大勢が園子屋さんを開店してゐる傍で積木片の電車を、チン／＼と押して走る男兒あり。衝突も小ぜり合ひもなく没頭した姿！ これは今朝の汽車では得られ

ぬ境地。積木電車、無軌道電車なるかなと思つた。

子供の歸つたあと、お人形の寝臺を作る。

五月二十四日（火）

久々ぶりの快晴。何をおいても今日は外遊びだ。みんな連れ出す。男兒の多數は今日も庭中を無軌道電車に餘念なし。其の他は又いつもあかす面白いお團子作り。

室にこものは勿體ない。豫定を變更して椅子だけ庭に持出し丁度盛りのヒナゲシを寫生する。花の色のクレオンはどれ、葉つばはどうれ、と取出させて描き始めて、單色で描き上つて居るのがある。形については言はずにおいたが案外スラ～描いて居る。只一人、何うやつて描くの、とちつとも書き出さぬ女兒があつた。此子には描いて見せた。遊戲外で遊び過ぎると遊戲の時にふさける事がある。今日がそれ。入園當初時代にはピアノを彈き乍ら遊戯をさせるのは困難を感じる。窮せし先生、ふさけ者二人を例外に出して見させておいた。大きい池の組の子、途中に見物に來たから丁度都合よしと機關車（リード役）になつていただき「汽車」を新しく教へた。

食後人形のベットを作りあげる、傍で出來上りを待つて

五月二十五日（水）

汽車を隅に仕舞ひ込み金魚鉢と朝顔を机の中央に出しておくと今朝はそれを眺めに寄つて来る。汽車のことは忘れたやうに臺所を持ち出してまゝごとをして居る。

六七入になつた所で塗繪をはじめた。「鮒鯉」この頁は線外にはみ出ぬやうに、といふ塗方の上に池の水を薄く塗る練習に重きをおく。うすく塗る手の調節は難しいものと見え、これで一度目だが、うまく出来ない。塗繪は大方の子供が好きで手の運びも上手。KとM子は「もうくたびれたからいや」と一頁が塗りきれない。二人とも五歳。Kの方は鉛筆が、確とは握れず手が誠にぎどちない。未だ錯畫時代にあるKにはゆる／＼仕事を進めさせて行く積り。手指の細い運動の前に大いなる筋の機能が統整されて來なけれ

ばならない子だから。

こゝへHさんが登園。大變御機嫌斜でちいやさんにくついて居る。私が抱き取つても容易に泣き止まないので仕事はお仕舞にして外に遊びに出る。

今日は朝顔の種蒔、一鉢づつ持つて大きな石で孔をふさぎ土一ぱいをつめる。指でくぼみをつけた所に種を蒔き、名と花の種類をカタカナ書きした札を貼つて水をやる。これを銘々自分でしたのが嬉しさう。

唱歌シヤボン玉 室に入つて新しい唱歌を歌ふ。蓄音機にあるからとて知つて居るのが多い。

食後の片付けをして居ると今朝塗繪をしなかつた〇子、「今日は何にもしないの」と聞きた仕事を樂しみにして居る子。

Mがおへやで「おしつこ」をした。偶然にもれたのではない。これで三度目。注意をしたら、今日は、よげてゐた。分つて來たんぢやないかしら。小さい方の組としても餘り前例が無い。入園迄家庭では室内で便器を使って居たといふ。

Mがおへやで「おしつこ」をした。偶然にもれたのではない。これで三度目。注意をしたら、今日は、よげてゐた。分つて來たんぢやないかしら。小さい方の組としても餘り前例が無い。入園迄家庭では室内で便器を使って居たといふ。

お歸り後、まゝごとのテーブルやベット、臺所に、薄緑の

マンノーを塗つた。ふとんを縫つてベットに敷き込人形を寝かせておいた。明日はよろこぶ事だらうと、思ひながら。

五月二十六日（木）

十時近く迄外で遊ぶ。Kちゃんが久しぶりに出て來た。

珍らしい物は何でも「ボーヤのよー」で獨占したがるこの子室の隅から汽車を見つけて外へ引出す。女の子は朝来れば手をつないで遊びに出る。その仲間について出で「さくらー」しませうと言へば大よろこび。引きとめられて、「どちらがお好き」と聞かれると嬉しさうにアイスクリームだの、バナナと答へる。決して先生が居る方に來ようとはしない。もう少し大きくなると強さうな方の組になれるやうに答へるけれど。その後につゞくオーエスの引き合ひが又大變にうれしい。五六人ではじめたグループが十三四人に擴がつた。男の子で此の仲間に入らない砂場で汽車ごっこをしてゐた連中も自分の遊びを忘れて眺めて居る。三十分以上も續いたか！ 切り上げて室に連れて入る。

ぬりゑと書 昨日の「鯉」のぬりゑを残りの子供に、その他は兩側のボールドに好きな畫を描かせる。ぬりゑは一人でよく手本を見ながら塗り得る。紫と青の色を(池の水)間

遠へて塗りかゝつたのが四五人も居た。この色の間違は他の組でも経験した。ボールドにも帳面と同じ様な小さい繪をかきがちである、こゝでは碗一ぱいにふるつて大きい太いものが描けるように注意して居る。今日のやうに人數が少なければ廣い面が使へる。落ち付いて書けもする。AとKといふ乗合自動車をかいだ。

遊戯。しないと納まらない。そして、ボートレースをしなければ。これがみんな一等好きなやうです。

おべん當時間、H「あつちのお室で食べるの」と自分で云つた。實習科の先生四人が歸られたので私と二人は職員室へ。食事中お客様がよその組の先生が御見えになつたらよてしまつた。氣まり惡るがりさん。

S子、かけぶとんを作つて頂だいな、と次々のお催促。小布を見つけて早くこさへませうと歸りに服地屋へ裁ちくすを買ひに行つたが、合憎のこと、後二三日待てといふ。二三日は小さい有り合せので間に合はさせときせまう。

五月二十七日（金）

今日は實習科の實習日で先生が四人。昨日汽車に赤青黄などのエナメルで角塗りして乾かしておいた。これに今朝

は所有主の名をはつきり書き込んでやる。面目の改つた汽車を暫くは持つて遊んで居たが、やがてうちおいて外に出る者は出る。こちらで一生懸命な程の反應はない。みんなのを繋ぎ合せて靜かな室内に残つて遊ぶ者もある。

今朝は何とした事か、いゝ子が改めて附添を追ふ。こちらで無理に抱き取つたものだから暫く泣き止まない。

早朝の一遊戯。朝早く遊戯する時は氣持よく出来る。先にピアノの廻りに集つて唱歌。おへやはオルガン、ピアノの唱歌は聲もはづむ。シャボン玉を新しく教へる。スキップを一人組でさせたらY子が前でちやんと二人組になつて居るU子と手をひきたいといひ、U子は嫌だといふので二人が泣いた。思ひ通りにならないと泣く獨り子のY子、やさしくて氣弱くてよく泣くU子。他の先生がY子をなだめて「抱っこ」してゐた。

粘土、（汽車）出来る丈簡単な程度の汽車を私共で作つたのを机上に出しておき、「汽車を作りませう」と誘つた。さがに男兒は工夫を加へてモデルよりも構造のより複雑なもの構想のいゝものが出来た。モデルにはないレールをつけた者四人、レールが圓く連ねてあつたのは玩具の汽車を

思ひ出してであらう。その子は最もいゝ汽車を造つてゐた。

飛行機飛行船を作つたものもあり、今日もお園子だけの子もあり。みんな面白く何か作つてゐる所が目下の身上。

Hの食事は今日も職員室、私が時々中座しても給仕と二人でおいしさうにいたゞいて居る。此の分なら來週中に一緒にいたゞけさう。

庭の白ばらが見事に咲いた、○○が一人でそのあたりをブラン／＼して居る。私が近づくと、餘りばらがきれいだからお書きしようかと思つたの、といふ。静かな男兒、幼稚園からお歸りして御勉強するのよ、と話して居た。

五月二十八日（土）

朝、室内。昨日海軍記念日といふので山組で作つた木の軍艦を欲しがるので、木片を集めて軍艦作り。先生のお手傳をする、鋸や鎌を始めていぢれるのがうれしさう。

私と女の子達は澤山芽を出した朝顔の苗を花壇の縁に移植。

M先生と四五人の男兒が庭に出たと思つたら藤の木にのぼつて、猿だ、豹だと言つて居る。

十時頃、お入りして、H先生から「三羽のひよこ」の話をうかゞふ。これは今の時期に面白がられる話。H先生（實習生）生れて始めてのおはなしといふので昨日から緊張

してゐられたが、あれだけに話せたら大丈夫。

それからお歸り迄、みんなの大好きな本校行。途中小學校の庭が空いてゐたから、大きなお舟シーソー、桟の大きなジャングルジム・長い／＼すべり、に大満足。廣い運動場でかけっこもする。存分に遊んだ。

天氣が良くて殆んど外遊びに送りましたから汽車の方は發展せず�습니다。まゝごとの諸道具だけは隨分利用されました。あれで面白く遊べました。

お辦當を、幼稚園では食べないと頑張つてたHは、「あちらの室」（誰も居合はさない室）で食べる様になりました。月曜日には附添と二人で、私がその室から出なければ箸を取りませんでしたが、金曜日には私でも、代りに給仕でもよくなりました。もう皆と一緒になるのも近い日と思ひます。非常にきまり悪るがり屋さんなのです。

附添を追つて泣きも、私が抱きとると泣いてはるてもちつと抱かれてゐます。前頃は先生を蹴つたり打つたりしたもので。そんな子供も一人くらいになりました。今週になつたら大變いゝ子になつたといふ様な土・日曜を界にしての變り方もあります。つくづく時期の問題だと思ひます

森



の

組

新庄よしこ

五月二十三日（月）

森の組は去る四月八日入園したる年少組、はじめて保育を受けしより約四十日あまりを経たる幼兒の一組。約半數の幼兒は當初より附添と離れ、その後日を追ひて附添へるもの少くなり、今は朝別るゝ時に泣く子一人、それも二三十分もたてば泣き止み得。されど他の泣くを見ては、或は何かの拍子に、とかくシクシクと泣きたくなるものは未だ二三人はあるといふ状態なり。

豫定

月	談話	旗つくり
火	遊戯	カタカナ調査
水	自由書	本校へ
木	積木	塗繪
金	談話	遊戯
土	本校へ	遠足

早く來たる三四人の幼兒、長椅子にもたれて何かと話しあひ居り、これに一人づつお早うといひかく。朝の挨拶大かた自ら云へども、中には言ふべきとは知りても口に出していひ得ざるものあり、又全然知らぬもあり、中にはさげたるバスケットが床につかんばかりの丁寧なるあり、特に家にて云はれて來たるものらしく、然しこれも始の間のこと、兎に角いづれにしても朝は一人づつに言葉をかけたきもの皆が出揃ふ迄と是等の幼兒と校庭を歩いてゐると砂場に落葉が堆いので箒を取りに行かうとしたら、引ちがひに年長組男兒の一隊が先生のお手傳にてせつせと掃き始めし故今日は手をつけないで置く。

わが家の庭に咲きたればとて子の父なる人、ばらの枝を持ちて來られたれば室に入りて壺の水を新らしくす。

電話、幼兒宅より、病氣ではありますんが、あまり毎日

毎日泣いて我が家まゝ申します故今日は休ませて見よう存じます

つかり一人になれるのにT子はこれにて三週間目、今日も

朝の一時を大騒ぎに過すこと、覺悟して來たるに少々氣ぬ

けの形。

談話。みな揃ひたる様子、室なるはそのまゝ、ぶらんこのも、砂場のもよびいれてお話と云へば、みな／＼小さき椅子を持ち来て膝のまはりをとり圍む。

——僕きのふ日比谷公園に自動車で行つたの——

この發言にて話しあひへとながらかにすゝんでゆく。

——僕はね、昨日お母さんがガマ口買つていらつしやつたの。

——お家で活動寫眞したの、お父様がして下さつたの

よ——

つゞいて詩の暗誦、まづ左の詩を一度ばかり読みてきかず、始めてなれば短きものを選ぶ。

雨はどこにも降つてゐる

木にも家にも降つてゐる

私の傘にも降つてゐる

海の船にも降つてゐる

先生が云ふ通りみんな一緒に言つて見ませうね。

雨はどこにも降つてゐる

先生と幼兒一同、

雨はどこにも降つてゐる

かくて次々一句づつ唱へて全部を幾度か繰返す中に覚えこみたるが四五人あり、すん／＼先にたちて唱へて居る。

旗作り　日の丸　半紙大の白模造紙、圓を描きたる赤模

造紙、細き竹、玉にすべき黃色模造紙、男兒より始む。幼

兒は鉄にて丸の線を切るのみ。すぐ出来てしまひ、先生が赤い丸を貼つて旗竿につけてすつかり出来上る迄その子は自分の旗をデツと見守つて居る。左ぎつちよの子の側を離れずついて居て、右手のみを使はせたり。この旗みな／＼氣に入りたる様子、今日持ちて歸ると云ひしが、海軍記念日の日と約束してあづかり置く、竹やあ／＼竹え／＼と大きな聲す。見れば残りたる細き竹をかつぎて、町々を賣る様なり、つゞいて、竹やあ／＼青竹え／＼、竹やあ／＼旗竿をーと

いひ歩く。聲といひ調子といひなか／＼うまきもの。

り三十分もおくれてのことなり。

折から小雨になりたればみな室に入り來。五人は、歯の治療の爲小學校休養室に行き、あとは室にて繪雑誌みるあり、ポールドに描くあり、繪雑誌中に雪だるまの繪あり。

——雪ね、もうせん家に降つたことがあるの、

——あら、先生の家にも降つたのよ、

——海にも降つたね、

今朝の雨の詩を思つてであらうか。

お辨當。

午後は思ひ／＼に遊べる中に勝美、地のくぼみたる所に釣りの糸をたれて居るので、こゝはお池ときけば、うん、

こゝはどぶから續してゐる池なんだ、と云ふ。お魚が泳いで來たのねと云ひながら落葉を糸の尖につけてやればうれしさうなり。なるほど、畫用紙に魚の繪を描かせて、これを切り、釣りの遊びも面白からんと、これにて來週の製作の一つを思ひつきたり。

お歸りの支度する頃俄に真暗になり、廊下など人の顔も

わからず、あゝ、夜だ、夜だ、夜になつちやつた、先生電氣つけてよと云ふ。驟雨はげしくみんな歸りしひつもよ

これは始めて今日うたふので一句づつくり返し／＼共に

二十四日（火）

昨日に引かへ今日の爽々しさ。自ら心地よく保育室に一人づつを待ち受へ、何れも砂場へと出て行く中に母と來し子なか／＼離れず(いつもは平氣なるに)何かと云ひては母を引ばかりおく。浩さんと昭二さんと來たら歸つてもいい、など云ふ、これは母に一緒に居て貰ひたき口實なれば、ちよつとは強く泣いて母に歸つて貰ひたるにすぐ泣き止みたり。

遊 戲

今日は森の組の遊戯の日、先きにピアノのそばに集りて唱歌す「砂のトンネル」「夕立」等はよくうたふ。

かぢやさん。

カツチン カツチン 仕事する

かぢやのおぢさん あついだらう

真赤にもえてる火のそばで

汗を流して仕事する。

うたふ。

次に遊戯

約十字
約二三字
三
八

タ立、結んで開いて、貝拾ひ、汽車が走る、蝶、ボーレース、こまどり、スキップ等。

これの終れる頃外國人の參觀あり、ピアノ彈く手は一寸困りしがむづかしきものもなくてまづ／＼よかりし。おそく子來り女中歸りしに、大泣きに泣きたれば、抱いて外出で、附添のあとを追ふやうにして庭をぐる／＼せる中に機嫌なほりたり。かたくなに結ばれたる小さき心の、日を追ひてとけゆくを見るは保母ならでは味ひ得ぬことなるべし。

カタカナの調査

先週は數なりしかば、今日は字を調査す。幼稚園を終る頃大かたの幼兒カタカナを読み得るやうになるものなれば入園當初のものを調べ置きたきこゝろにて、一枚のカードに一字を書き一人づつきって。

調査人員
二八

全部知るもの
全部知らぬもの
一〇

○どの字を見せても機械的にアイウエオ、カキクケコとこの順に云ふあり。

○二三字知れるはみな自分の名。

○全部知らぬと云ふ、中には知つて居てもきまりわるく發言の出來ぬためのものあるやうなり。

右を一枚の紙に表にして記しあく、保育期のかはり目には調べて記しあかんとてなり。なほこれは、積極的に字を教ふるためにする方法にはあらず。今日はこれに長く時間をとりて、お辦當は少しあくれたり。

午後大方砂場にてあそぶ。積木を電車にして、山、トンネル等を作りまはるに夢中なり。木の葉を掃き、又は圍ひの外にこぼれたる砂を掃きよせ居たるに「先生があんなにきれいにして下さる」と云ふ、思ひがけざりし言葉なり。積木を室に運びおくつもりなりしが今日のこのよき日に室に入るも惜しくて外にて遊びつづけたり。

二十五日（水）

うす曇りの、しかも風の荒き日なれば大方室にあり。二

人はかり便所のたゞきに電車の繪を描いて居りしかば室のボールドに伴ひ来て各色の白墨を與ふ。一人が一間程の船とたこといかをかきたれば二人は潛航艇を二隻。一方のボールドは赤、黄、綠等の線にて亂塗のさまなり、されどこれを見てみると、こゝは停車場、こゝはトンネル、お山だなどと云ひながら描いてゐるので自分が電車になつて、レールを走つてゐるところ、線は走つてゐるしと見えた。それが二三人で走るのでかくはめちや／＼に見ゆれどやがてこの一線が美事なる繪となるべきはじめと思はれた

り。男の子にとりて線路はかなり魅惑のあるもの、哲彦が大きな紙に線路と、走つてゐる電車の繪を描きたるがあり、この繪の前に立ちては人さし指にてレールを撫でたる子四五人を見かけたり。心の中に走りたるなるべし。

女兒九人、相連りて小學校女學校本校等歩き樹木を調べ

に行く、知つて居りしもの、

木 桐、松、つゝじ、あぢさゐ、じてふ、びわ、笹。

草花 すみれ、けし、しらん、金魚草、石竹、はら、ス

キートピー、菊。

野菜 さやえんどう、バセリ、そら豆。

さきのボールドの繪に引きつゞきめい／＼帳面に自由畫を始む。入園當初より非常に大きくなる繪を描くもの四人ありて、いつも一枚に描きつくせず、二枚つゞきにするので、この爲にとて立ちて大きな繪を描き得る畫架を求めて與ふ。思ふ存分描くようなり、これ今は一箇なれば、兩面即ち二人づつはこれにて描く。

體格検査の時休みたるもの四人、今日は揃ひたれば休養室に連れゆき身長、體重、胸圍をはかりおく。

午後積木室より積木を森の組の室に一人づつ運ぶ。軍艦を作らんとてなり。されど大積木は池の組にて使ひ居り、どうしても借されないと幼兒に斷られしかば仕方なく、つかひ残りのみ今日は運び置く。大方よごれ居りし故一同にて雑巾がけす。

二十六日（木）

軍艦。積木にて。

昨日より室に用意してありし積木に大きな箱積木を加へて艦の土臺（二間位の大きさ）出來かゝり居り 實習生（作る）早朝より來たる子等是を手傳ふ。土臺の完成、欄干

大砲等出來上る、次々に手傳多くなり煙突はかようになどといふ。その他種々の注文によりなるべく是に添ふようにすれども、折角の中出が危険にて出來ぬこともありし。

是れ年長組ならば全然幼児の發案製作に任せてすべきなれど年少組なれば保姆が主になります。

僕は車掌になつて乗りたいなと茂いふ、水兵さんでせうと云へばけぢんなる顔。今のところ海陸共に車掌の權限と思ひ居るらし。

男兒本校に行く豫定なりしがあまり風強く、室にて塗繪と變更、女兒もはいり来て塗繪がしたいと云ひたれど少し待ちて、と云へば長椅子に腰かけて静かに待つ。

風の強きのみならず何となくをかしき天候、保育し難き日とつくづく今日を思ひたり。

お辨當の時用意が出來たれどもすぐ食べず、箸を持つ前に少しの間静かなる時を過すようしきものと思ひ、歯刷子掛の自分のものゝ位置を一人づつたしかめさせる間デツ

と待たせおく。これ少し長くかゝりし爲にや智久お食後のバナ、食べてしまひしに氣づく。

食事中一人の男兒箸が落ちたと泣く、洗ひたるに又泣く、

側に行き食べよきようしたるに又も泣く、たうくおしつ

こと云ふ、びつくりして大急ぎ連れ行きぬ。こんな時すぐ氣がつくべき筈なるを、しかもこの子は何かにつけて人手を借りず自分でする子なるにあまり迂闊なりし。特に几帳面なる性質故食事中のおしつこに困りて泣きたるなるべし、愈々恥かしく思ひたり。午後は年長組にて製作せる汽車の走るを遊戯室にて見る。鐵道開通式見物といひたる状景、組の英雄豪傑もこの汽車に吸はるゝやうしづかにながめ居り。子供にとりて興味の中心なる機關車、客車、繪によりて僅にその憧憬を満たし居りしが今、目の前を走つてゐる、子供が乗つて居る、實際のものでは好きでもそばによつては威壓を感じるあの汽車が今同じようなる友達が動かしてゐるこの有様。先生もわが組の子の心を察しながら、されど面白く見物して居る中に歸りの時間とはなりたり。

二十七日（金）

朝、艦にマストを立て、日章旗、軍艦旗を掲ぐ。

談話。今日は實習生のおはなしなり。

○海軍記念日のことを簡単に、お母さまにきいたといふ

もの二人あり。

○赤ちやん羊、かなり長き筋なるも終り迄静かに聞いて
居りし。

○あとで本校にお辨當持つて遠足に行くといひしに立ち
上りて皆喜びたり。

遊戯。火曜日のものと殆んど同じ、牛若丸を始めてした
るによく知つて居り、いつも遊戯せぬもの迄勢よく仲間に
はいりしはうれしかりき。

遠足のため買ひたる菓子（ピスケツト一枚（大）ベルベ
ット一ヶ）を紙につゝみ一人づつに渡してバスケットに入
れさせ帽子をかぶり、筵、麥湯等用意して本校に行く。クロ
ーバーの縁深し。先に來し年長組の一隊が大太鼓小太鼓に
て奏でし樂隊の今終りし様子、惜しき處なり。筵をしきの
べ早速お辨當を開く。これを見てさきの組の子もこゝで食
べたいと先生にいふ。一一押問答の末それではといふこと

になりたるらしく、はるばるお辨當をとりにゆき、この組
は小高きところ、ヒマラヤンシーダーの木かけにて食事なり、
麥桿帽子の小父さん。（本校教授）が通りがかりにうらや
ましいなあとバスケットをのぞいて行かれた。食後こゝに
立ちてすらーと云ひたり、されど何やら頬のふくらみ居

て駆けまはり皆汗をかきたり。幼稚園に歸つてお歸り迄し
ばらく腰かけて休み、かねて約束の旗を持ちて歸る。
お天氣の都合にて急に遠足を加へたれば今日のプログラ
ム盛り澤山にて、それに俄にあつくもありし故か、ぐたぐ
たに疲れてしまひぬ。

二十八日（土）

内なる三四人が軍艦に乗り居り、それゞゞの部に働くを
しばらく見てありしが、艦が出ますよ、そら動きますよ、
あぶない／＼海の中に落っこちまふ、など相當にこの大き
なる艦を我がものにして遊ぶようになりたり。

談話

ほんの四五人まはりに居りし女兒と共に、

雨はどこにも降つてゐる

木にも家にも……

と暗誦してゐるとめい／＼椅子を持つて来て一緒に唱ひ
始めぬ。もうすつかり覺えこんでしまひし様なれば、「そ
れでは一人づつでいひませう和子さんは」と云へば素直に
立ちてすらーと云ひたり、されど何やら頬のふくらみ居

るに、

和子さんの頬べたがふくらんでゐる
おいしいものでもはいつてゐる

とこれもうたの様に云つて見たら、ニコ／＼して、え、
キヤラメルよ、と。當人も平氣でゆつくりとしやぶつてし
まひ、まはりの小さき友達も別に欲しき顔もせずよく育て
られて來し子等よとあらためて顔々を見まはしたり。つゞ
いて四人ばかり一人にて唱ふ。では今度はお唱歌を一人で

うたつて見ませうか秀威さん……これはそれ／＼得意のも

のを一人或は二人にてうたふ、夕立、お砂のトンネル、牛

若丸等なり。純男の獨唱にはいつもこの先生のピアノの音
では氣の毒と思ひつゝきて居り。幼稚園生活が伴侶の力
でその子／＼によき教育が出來ることはいふ迄もなき事な
がら、集の力をかりてのみならず獨自にて自分の思ひを發
表するこゝろを養ひたく、唱歌、おはなし等一人づつにさ
せることあり。これも談話の中にふくむ。

男兒は未だ校内の木を見に行かざりし故實習生一人が四
人づつ連れてこれを調べに出かけ、女兒は砂場にて洋菓子
屋を始む。曇り日なれど風なく、人影少なき爲か、めぐらし

くも今日の庭は靜かなり、されば心ゆく迄砂遊びに餘念な
きすがた美しと見てありしが、本校より歸り來し男兒等、新
庄先生！ こんなにいろんなもの取つて來たの、紙をひろ
げて見れば、てんとむしとその幼虫、麥の穂、木苺の實、草
の葉種々、その他木も見て來て、みんなにしてふと桐の區
別がよくわかりましたと實習生はいひたり。
土曜日なれば十一時半。これにて歸りの支度す。

文部省主催保育講習

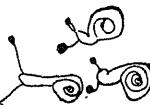
本年の文部省主催保育講習は七月二十二日より同一
十七日まで、東京女子高等師範學校に於て開催せられ
る豫定の由であります。詳細は追て官報にて發表せら
れる筈であり、申込手續にあくれられないやう、又
その手續を間違はれぬやう豫め御注意を希望して置
きます。

林

(の)

組

及川ふみ



豫定

作つてそら豆の舟にのせる。

準備

そら豆は出来るだけよく質の入つたのを一人に一本づつ用意して五百枚十五錢でかつておいた。

かたつむりは、先週の金曜日に組中の幼児で花壇の中から探し出したのが三四十も硝子の飼育瓶に入れて毎日お部屋においてある

かめとお玉じやくしとは二週間ほど前から池の組からかりてきて、かたつむり同様おいてある。

てんとう虫もあぶら虫と一緒に瓶に入れてある。
八時半頃お部屋に入つてゆくともう一人の幼児と實習科生とが何かお話をした。

今日はお庭で粘土。つくるものは實習科生一人づつを中心としてのグループで四種ある。A組は龜、T組はお玉じ

やくし、組はかたつむり、F組はてんとう虫。

五月二十三日(月)

今日の豫定

てんとう虫や、お玉じやくしはそのまゝにして金魚、かたつむり、かめの瓶を流しにもつていつとれも綺麗にお掃除する。

お椅子をお庭に運ぶもの粘土板や瓶を運ぶもので大人も幼兒も一しきり忙しい。

新緑の藤棚の下はほんとに心地よい。四所でそれべつくり出した。おくれて來た人の世話や、歯の治療の事で看護婦さんとうち合せてしてかたつむりのそばへ來ると大分出來て居るので大急ぎでそら豆のさやをとりにお部屋へつてお机へ分けた。

船にするにはそら豆を上手にわけなければならぬので一つは實習科の方にわづてもらつた。

この一つの机の細かい觀察は實習科生にかいてもらつた。

今日の粘土はお外でするので外へ出るのが一番好きな多一郎さんは大喜びである。私のところはおたまじやくしを捨てる、最も嬉しさうに作り始めたのは多一郎さんである。直に四つも作つてしまつた。尾があつて足のあるもの、尾のないもの、足のまだないお玉じやくし等。

最後に残つて居る粘土で大きなへかぐるを作つた。ツキ子さんは何時も上手に何でも作るのに今日はどうしたのか何もつくらない席を立つて私のところへくつてきて来るやつと出來たのは大きなまり位のおたまじやくしに小さい尾のついたものである。それから「今度はも少し小さいのをおひくりなさい」とふとそれを十位にちぎつてくちやくのお玉じやくしにしてしまつた。チズ子さんは小さい尾の長いのを一つ。幹ちゃんは直ぐに粘土が出来る様になつて可愛らしい足の生へてないのを三つつくつた。國太郎さんは足のあるお玉じやくし平たいもの。國太郎さんはよく平つたいものを作る。文江さんはいくら粘土を手にもたせてもしないと首を振つてト横を見つめて居る。おたまじやくしが出來てからそら豆の莢で舟をつくつて出來たおたまじやくしをのせた。幹ちゃんは自分でこしらへたのをのせないでお舟だけをギチラ～とゆりうどかしてよろこんで居る。今度は莢ごと一つ一つお豆を渡して自分でむかせて見たツキ子さんは上手にむいた。幹ちゃんは一寸破れたといつて泣き聲を出す。皆がこのお豆をどうするのとき、「面白いもの

を作つてあけるのですよ」といふと多一郎さんは早く
／＼とせがむ。

大きな彌次郎兵衛が出来てよろこんで可愛い指の上で
おどらせて居る。

急に雨がふり出してお部屋に入つてしまつた皆が大喜
びした彌次郎兵衛も文江さんはいらないといふ。豆の舟
にのりきれないのをのせるのに大きな木のお舟をつくつ

た子供のかいた輪廓をミシン鋸で先生が切つて下さる時
も芳久さんは木片を誰かれに分けて居る、多一郎さんは

土曜日に拾つた汚い木片を大事にして持つてかへつたが
今日は「あんなものいらん」のださうである。多一郎さ

んはなか／＼彌次郎兵衛が氣に入つたので、木片など物
の數でもない。先生が彌次郎兵衛に顔を墨でかいて下さ

つてからは益々大喜びで面白いなあ／＼と盛にくくりかへ
して居る。うまく出来たら御喝采をとはしゃいでゐるそ

していろいろのところへのせてやつて居る。月子さんは
お家へかへると一つだと赤ちゃんがほしがるから二つ持
つてゆくといふ。幹ちやんはお豆を亂暴に扱ふので何邊

も／＼豆がとれて穴だらけになつてしまつた。

彌次郎兵衛でながら遊んだので少々お辨當の時があくれ
て皆がおなかがすいたと大きわぎ。

今日はT組と一緒に食事をしたとなりのF子さんはまだ
一人でお辨當箱からお茶碗へ入れられない。

食後のうがひや歯みがきも上手になつた。
雨がやんで庭で遊べた。

五月二十四日（火）

今日の豫定

ボートの旗つくり

粘土の追加製作

大きな木の舟に旗をたてる支度をしてゐるうちに二人三
人とだん／＼に幼児がくる。

きのふ作つた舟を一人／＼にくばつて色紙の箱とヒゴと糊
を用意して旗をつくらせた。

その間に四人の人に特に大きい旗を注文してきつてもら
ひ大きな舟にたてた。みどりはかたのむり。ももいろはか
め。黄色はおたまじやくし。水色はてんとう虫。

舟なしで居た大きな龜は六匹でお舟が満員になつた。か

たつむりも餘分に澤山出来てゐてすぐ舟が一杯になつたが
てんとう虫とお玉じくしは餘分にはちつともなかつた。

てんでんに小さいお舟に旗をたてゝ大きな舟のそばへか
さつてゆく出来上つた人いたのんでてんとう虫とお玉じや
くしをこしらへてもらふことにした。

粘土の板を洗つたり、きりがみの後始末をしてさきに外
に出た人達を氣にして窓から見ると少し形勢不穏のため床

をはく事を河合さんに願つて外へ出かける。通りすがりに
山の組の大好きな自動車にのりたいといふので四人をのせて

庭に出てる雨あがりの心地よいお天氣。砂場に一かたまり。ぶ
らんこに一かたまり。杵のぼりにも一かたまり。となつて

遊んでゐる今一緒に連れて出た腰巾着の三人とぶら／＼し
てゐる人たちを集めて山の木の下に墓草を四枚しておま

ゝごとをはじめた。「及川先生はお母様よ」と云はれるま
ゝにすわると丁度よい場所へ陣どつたどこで遊んで居る人
も皆見えてよい。豪傑のKさんもひさんもすべり臺の下の
砂場で盛に砂を掘つてゐる。

おとうさんは何雄さんよ。と誰かがいふ外の人たちも次
々とお姉様やお兄様になるそれ／＼に何かしてゐるすべて

の點に大人ぱいT子さんは「あらおかしなことお母さんが
及川先生でおとう様はまだ幼稚園の生徒さんおぼゝ」と笑
ふ。誰も氣にとめない。かたばみの實をとつてきてきうり
だと出すと皆よろこんでさがしに出かける。煉瓦壠のそば
に澤山ある。そのうちに月子さんがとうもろこしどうもろ
こしともつて來る大ばこのつぼみで可愛らしいともろこ
しである。

まな板の上に砂と黄い母子草と交せておしゃもぢでたゞ
きつけて上手に久子さんはよせものをつくつた。

ぶらんこのそばで相變らずつくねんと一人で柱にもたれ
てゐるF子さんをよんでもちやんにした。

砂場の二豪傑が見えないのできくと自動車に乗りにいつ
たと聞いて安心した。

そのうちにMちゃんがかんしゃくをおこして邦彦さんに
積木をなげつけて大急ぎで冷やしてみると珍らしく早苗さ
んが足袋はだしで泣きこんだやはり女人の人とお顔のつねり
合ひ。のどかであつた庭の一隅も大きさぎにかはつた。

十一時半お辦當で皆で一緒にお部屋に入つた今日はA組
で食事をした。

午後は一人のこらずお庭で遊んだ。」

五月二十五日（水）

水をとりかへた金魚は心地よさそうに八匹とも元氣よく泳いで居る。寫生したり粘土でつくつて見たりしてゐると月子さんが急に「先生金魚のお腹が切れてゐるね」とびっくりしてゐる。エラのばくくうごくのに氣がついたらしい。

八匹のうち一匹だけ眼の形が少しかはつてゐる。

「あの白い金魚の眼がちがふでせう」としふと「あゝちがふ／＼あれは出眼眼だよ」といふ

だん／＼に幼児もふえてきたので河合先生に唱歌をはじめでもらふ

「手をのばしてもピアノにとゞかないところへいらっしゃ／＼」唱歌のときにピアノをいたづらして仕方がないので今日で二度目のきまりそのうちに自分たちの腰をおろす位置もわかる事でせう。

大きなお日様。

大きなお日様。

唱歌を終つて幼児は椅子を机のところへ運ぶ。

今日は幼児だけで圓をつくる男の子に缺席者が四人もあるせいかほどよい丸が出来た。

がはじめて教へられる「誰かゞ遠くで歌つてゐる」のふりを説明していらつしやるとかへて耳をおさへるものゐる。かいぐり。雀の子、をはじめるとき郎さんとM夫さんは圓からはなれてふら／＼と一人は杵のぼりに一人はシーソーに乗り出した。呼んでもなか／＼こない幸ひ他の人には傳染しないのでつゝけてやつてみるとそのうちに小さく組や大きい組の數人がはいつてきてさわぎ出した辛抱しかねて出てもらつた。ゆりかご、水鉄砲、おたさんこぢら、ものまね、蝶々をしておしまひの合図をするとGさんもMさんもやうやくとび出して列に入つたスキップをするのがうれしくらしさ。

今日はじめての割によく歌へる「知てからしやるの」

まだ男の人三人と女の人が一人スキップをはじめない。

本校へかけっこにいく。

テニスコートは砂利もなくころんでも安心と思つてラインを田當にやり出した。

はじめは五人づつ同じ位の人たちをよつて走らせる。

邦彦さんや五郎さんはいつもねまわつてゐるのでなかなか早い。和子さんだけは走らないで横で見てゐる。源平に分けたして見た。河合さんと傳さんに立つてもらつてそのまわりを廻つてくるのである。早くからひきかへしてくる人もあれば白で居て赤の方をまわつてくる人もあり走らないで見てゐる和子さんのところへ話による人などもあつて兩方の遅速がなか／＼わからない、自分のはしる順番もわからないし旗を渡す人も誰に次を渡すのかもわからない。その世話になか／＼いそがしい。やつとの事で白が勝つた大して喜びもしない團體の競走といふものに興味もないのであらう。

二度目にははじめよりはいくらかよい。やり方がいくらかわかつたらしい赤が勝つたのでやめた。

日頃お部屋におれば自分の席に糊ではりつけられた様に

一步も活動しないFさんや何をしてもいつもしんがりのグズ／＼のA子さんも今日のかけくらを見てはまるで別人の様になか／＼敏捷に旗のうけ渡しもすれば駆けるのもなか／＼早く一生懸命にやる。この人たちのよい半面もよく見られてうれしい。

幼稚園のお庭で圓木の上で休んで居るともうこの圓木が二臺の電車になつてゐた一寸も活動をやめない。どうしたのがお庭は林の組だけで静かに遊べる。

お晝食後花壇でばらの花がきのふからさき出したので眺めて居ると白い小さい白丁花が一面に咲いてゐる細い草に捨つてさすとなか／＼きれいだ。そばにゐる人たちにつぎつきにさしてやる。よろこんで大事さうにもつてゐる例のF江さんは「きれいでせうこしらへてあげませう」といつてもうなづきもしないこの間の彌次郎兵衛にも興味もない。だからほしくないのかもしれないと考へながら他の人のを作りつづけてふとF江さんの方をふりかへつて見ると、片手に一ぱいに白い小さい花をにぎつてゐる。あゝよかつたとこれにさしてあげませうといふとにこ／＼して手を出した二人のいたづらさんと二人の何にもあまり興味をもたな

いこの人たちの事ばかり考へてゐる。

五月一十六日（木）

今日は早くから本校へ虫とりにゆく豫定であつたが風があまりに強いためお話や自由畫をその前にする事にした。

天とう虫のお話

天とう虫のお話をきいてから

煙草のすきな　　ちいさんが

廣い野原の　　まん中で

マツチをなくして　　大きさはぎ

見ればさいはひ　　足もの

草のはづばに　　火がもえる

ちいさんあはて　　腰まで

煙草の雁首　　もつて行きや

大事な／＼　　火はきえて

パツととびたつ

てんとむし　　てんとむし

眞赤な／＼

のうたをうたつてもらつた。

金魚やかたつむりやかめなどをこの前の自由畫のときと

場所をかへておいた。

お部屋の窓はあけられないし、むし／＼あつくて幼稚園

にかへつてきた。

此前にもしたのでものはちがつてもさうと書き出した少し風もないだかと思つて本校へ連れてゆく。今日は八人もお休み二十二人の幼児と河合さんとで籠をさげてゆく。本校の花壇にそら豆をとつたりてんとう虫をとつたりする。幼児は大喜び。

豆は小さいけれど澤山枝についてゐる。豆ごととつて花壇の細い道で幾かたまりにもなつて豆をもぎとらせた。東京の幼児には豆を枝からもぎとるなんていふ事はないめぐらしい。一人の子供はさつと豆までむき出した。お豆は出さない事にして炎だけとらせた。てんとう虫は今日は一匹も見當らない。風も強し又もうその時期でもないのかかもしれない。この前きたときは麥に鈴なりについてゐたのに殘念だ。そら虫の葉についてゐたあぶらむしをとつて瓶のてんとう虫に入れてやつた。もつてきた瓶がせまくななるかと心配してゐたのに一匹もふへないのはあまりにも豫定はづれ。

たちは少しからだをもてあましてゐる。前掛をはづしてく

緒にきた。

今日の豫定。

お話 三吉さん。

お話がみ てんとう虫。

れだとかお水がのみみたいとかいふ。月子さんはねむい／＼としきりにいふので抱いてやつたがねない、ソファーをひろげてベッドにしたが他の人たちも三人ばかりごろ／＼するので遊び出した。

午前中とつてきたお豆でお舟や彌次良兵衛を一人でつくらせたこの前にかつてできたお豆でしたときよりはとてもお豆が小さくて可愛らしいお舟である。お豆の粒も大小いろいろで、とても小さい。小豆位のも澤山ある。幼児はよろこんで手のひらにのせてゐる。

邦彦さんは、澤山むいたお豆大小十個ばかりを大きい順に並べられてある。

こんないら／＼する様な日であつたが、大してけんくわもなく、げがした人もなくてかへつたのはうれしい。

幼児がかへつたあと、實習科生の方々と、來週の保育案について相談した。

五月二十七日（金）

きのふにひきかへて海軍記念日にふさはしい日本晴、五郎さんと妙子さんとに新宿驛のホームであつた。ずつと一

A組のきりがみ

とし子さんは「何を切るの」ときくと五郎さんは「これでちよう」とけしを指した。そして皆熱心に切り出した。邦彦さんが切れないよ／＼と叫ぶ。一寸おしへると切り出した隨分熱心ではあるが、手が思ふ様に動かない。天とう虫の丸などよくきれないが、二つ目はよくきつた。莢だか葉だかわからないものを澤山作つて、花びらも八つ切つた。他のときには隨分いたづらをするが、粘

土や切り紙ぬりえなどのお仕事のときには、まるでちがふ人の様に座を一寸もたゝないで一生懸命にしてゐる。

五郎さん。初めのうちは神妙にしてゐたが、少しだつと氣が散り出す。今日は靖さんがさきに遊び出したので五郎さんも眞似出した。やつと天とう虫をきつて遊びに出ていつた。

やすしさんは何かしやべり／＼はじめ出した。棒の様な莢と花が出来た。

敏子さんは他の人に面倒を見てゐるうちに一人でどん／＼きり抜く。葉はちゃんとギザ／＼をつけて非常に大きくなつた。天とう虫も背中の黒や赤の玉までちゃんと出来た。花もよく出来、莢を一本葉を數枚つぼみ一つ餘分のものは一つも切らず、てんとう虫二匹きつたそのうち「花が一枚たりなくなつた」と泣き顔をしたが直ぐ見つけた帳面にはつてあけると、花の中の花瓣だといつて又小さい花片を二つきつた。蕊もつづつた蕊を一つの花にはつけなかつたのだと、「だつて一つは見えないのですもの」といつた。成程と思つた。

たへ子さん、私が他の人にかまけてゐる間のろ／＼し

てゐたので、何もしてゐないかと思つて見ると、いつの間にか真丸の花と太い莢と先がちゃんとするとくとがつてゐる葉を一枚つくり、てんとう虫の背中の黒い點もつくつてあつた。

幸子さんは一人ですん／＼切出す、初め緑色で花を切つてしまつたので、赤でやり直せると、少しおこつた様なお顔をしてゐたが黙つて丸くきりぬいた。莢や葉も細いのや太いのを區別して澤山きつた。

少しむづかしいかとも思つたが相當に切れた。

いつも始めからどんどん／＼やり出せないHさんなどはそばで花はどうしませう、葉はどう薦はどうと、次々と促してやらせる。切ると出来次第にお帳面にはりつけてやる。自分の仕事のあとが見えるのでいくらか自信も出来てきて、割合に後はすら／＼とする様である。にこ／＼しながらお帳面や箱を片づけにいつた。今日は小學校で九時五十分から海車記念日の旗行列があるので、始めをいつもよりも早くしたが案外ひまがとれて、もう十時になつた。

玄關前に皆があつまつて、小學校の運動場へ廻つてゆくと小學生が一人こちらへくる。今からお迎へに裏門に行く

のだそだ。私達も方向轉換すぐ裏門へと急ぐ。

門衛はくぐりを閉めて大門をひらいてゐる。ほどなく校旗を先頭に少年軍隊に「煙も見えず雲もなく」を高らか唱ひながら入つてきた。幼稚園の人達たちはびっくりして見てゐる。延々四百餘人の長い行進がすんだので、後につい小學校の運動場へいつた。うちふる國旗の波できれいな事だ。「日本帝國萬歳！」の三唱でこの催しがすんだ。

お晝食後は遊戯室に遊んで居る人が多かつたので、おとひのものまねをした。たぬき、ぞう、うさぎなどして見たが、うさぎのびよん／＼はねるのがうれしいのか、度々してくれと要求した。お友達もしてみた。一人のスキップをいやがる人もよろこんでしてゐる。

浩さんが急にはじを出して手當をしてゐるうちに、自

然お遊戯もおながれになつた。お部屋でねかせておくと、皆が静かにかはる／＼様子をのぞきにきて、こそ／＼に遊んで居る。おかげりの時には、すつかりよくなつて皆でそろつてお玄闘に出た。

五月一十八日（土）

今日の豫定 ぬりゑ。

お遊戯。

今日は兒童が登園するのがどうしたのか大層早い。九時頃には皆揃つた。

ぬりゑを早めに始めた。土曜日はお遊戯の日になつてしまふかも他の組のあとからする事になつてゐる。實習科生の實習の日ではあるが、かはる／＼ゆづくりしてゐては時間がなくなるので、四つのグループとともに始めた。

この週はお豆の舟にはじまり、ボートのぬりゑに終る様に計畫をたてゝあつたのに、どうしたのかヒヨコのぬりゑになつた途中でやめるのもおかしな事で、そのまゝつけた。誰か一人の人がまちがへて、皆がそれになつた。もつともぬりゑ帳の順からすればヒヨコではあつたが、とばしてボートと云ふ事を一寸忘れたらしい。

ぬりゑは自由畫や粘土やきりがみなどに較べて、やさしいものが幼児がすぐに手が出せる。もつともぬり方の程度によつてなか／＼樂でないものであるが、幼児の考へるのには出来ないなどといふ心配はないらしい。先生の方の求めどころなどには考へ及ばない。F子さんなど自由畫でも何でも一寸手を出さないが、ぬりゑだけはする

ところをあけるときと鉛筆をとつてゐる。そして、しかもそれが上手にする。この日だけFさんの心持も何かしらといふ氣持がある事だらう。

お遊戯は、今日は實習科生の杉山さんの指導で、ものまね、やゆりかごもだん／＼に覚えられてきたのか出来る様になつた。友だちは今日で一度目で、スキップの次の動作がすぐに出でないで、向ひ合ふのにまご／＼してゐるうちにもう次のスキップのリズムになつてしまふ。それでも三組ばかり女子子に、ちゃんと出来るのがゐる。

昭彦さんは、今日もお遊戯をしない。はじめは腰かけて見てゐたが、だん／＼窓をのぼり出したので、すつとおしまひまで傍で一緒に見てゐた。

お庭で遊んでゐるうちに、五郎さんに邦彦さんが棒のぱりの一番上で大けんくわを始めた。何でも場所のとりあひであつたらしい。兩方ともみづばれが出来た。五郎さんはすぐに機嫌がよくなつたが、片方はなか／＼泣きつづけてゐる。泣いてる邦彦さんを相手に、朝顔にあぶらかすをやる事にした。一週間ほど前に花壇のまわりに澤山蒔いた種が二葉を出した。

土曜日は幼稚園の時間も少いので、妹や弟を連れて朝からお歸りまで居る人も澤山あつて、幼稚園のお庭など市内の小公園の子供の遊び場の様に思はれる時もあるが、今日は天氣もはつきりしなかつたせいか、遊びにくる人も少くはよかつた。幼稚園には大人の數の多いのほど目さはりのするものはない。

唱歌や遊戯のあつた日には、いつでもあとでいろいろと考へさせられる。

遊戯のときにちつともしないで、始めから腰をおちつけてゐる人や遊戯の途中、ひょこ／＼ぬけ出して別の遊びを始める人や、お友達にいたづらばかりをしかける人などがあつて、遊戯そのものをさせるよりも、その人たちを皆の遊戯の仲間に入れるのにほと／＼骨があれる。

唱歌のときもそうである。はじめほんのしばらくの間は、皆で一緒にうたつてゐるけれども、すぐに話がはじまる、けんくわを始める、だん／＼と席を立つてゐつて黒板にいたづらをはじめる、外の遊びをするといふ様で、おちついて始めからお終ひまで唱つてゐるのはごく少數の幼児である。もつとも大きい組になるにつれて、お友達お互の

制裁とでも云はうか、お友達から何か云はれる事をおそれて、ちやんとしてゐる人や、又静かに唱つたり皆と一緒に遊戯をするものとあきらめて、ちやんとしてゐるものもある様である。女の子は唱歌や遊戯が好きでさわいだり、ふざけたりするものはほとんどないけれど。この唱歌や遊戯に一寸も興味をもたない人たちを、どんなにすればよいかといふのにいつも考へさせられる。

丁度五月六日お節句のあくる日に、倉橋先生から大層よいお話を伺つて、何だかゆくべき道がわかつた様な氣がする。唱歌を子供が唱ふときに、その子供が全體の一人として唱ひ方も並はづれて大きな聲や、變な調子はづれの聲を出したり、その態度が唱歌を唱つてゐるといふ態度でないといふのは、その子一人といふものをよくするといふようない事であるから、唱歌といふものをよく皆で唱ふ様にしたい。(上手といふよりも)

一人々々の子供が唱歌を上手に唱へる様にするといふ事も大切な事には相違はないが、幼稚園ではそれよりも全體の一人として全體を損はない様にしたいものである。

きのふの節句の集りにでも皆が歌つてゐるのに、ある子供だけが一人椅子からはなれないで腰かけてゐる。そんなことはその子供としてよくない子である。兵隊さんが足並を揃へて歩いてゐる事は、簡単なことであるがそこに全體がそろつてゐるといふ事が一つの快感を感じるのであつてそのうち一人の人が足並をくづして歩いてゐて平氣でおられる様ではこまつたものである。幼兒でもそれと同じく自分だけが人並ちがつた事をしてゐて、平氣でおられる様ではこまる。こんなことが家庭教育の補ひを幼稚園がするのに充分出来るところであつて、一人や二人の子供だけ見てゐる母親なり、父親はその子供たちを大勢のうちの一人としてどんなに皆と調和した生活をしてゐるかは知らないのである。といふ様な意味のお話をしていたゞいた。

唱歌のときに唱はない子供や、お遊戯をしないでいつも腰ばかりかけて見てゐる子供の事はいつも氣になつてゐて、あせつて見たり、又そのまゝにしておいたりしてゐた。こんなお話を先生から伺ふと尙さら氣になる人達が可愛想でたまらない。何うか努力して早く皆の仲間に入れてやりたいものである。

池

の

組

村上露子

木曜日

塗り繪。(ばら)

人形芝居。(舌切雀を子供にさせる。)

金曜日

海軍紀念日を祝す。

軍艦作り。(筆で描いて、切る。)

樂隊遊び。

昆虫採集。

土曜日

切り紙。(菖蒲。)

唱歌。遊戯。

お話。(實習科生に、ガリバア旅行記の續きを。)

お庭のけしの寫生。

唱歌。(おにごっこ。)

遊戯。(新らしく、おにごっこ。)

豫定

月曜日

汽車の機関車塗り。

飛行機製作續き。

野菜の苗の植付け。

火曜日

天氣がよければ、一日を外で。

日曜日に行つた所の子供との話し合ひ。

粘土、——ロボットの機関手。其の他。

朝顔の植移へ。

お話。

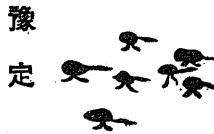
水曜日

唱歌。遊戯。

唱歌。(おにごっこ。)

遊戯。(新らしく、おにごっこ。)

其の他、機會を見て汽車の完成を急ぐ。



五月二十三日（月）

前年度の終りに、二學期の初めからの計畫がやつと出来上つて、お部屋一杯に、お茶の水の水動物園を開催した。ライオンを初めとし、象、虎、麒麟、熊、駱駝、水牛、縞馬、鹿、カバ、ワニ、山羊、兎、猿、犬、オットセイ等、實に八十餘匹の動物達は、其の後部屋が狭いので、お愛敬者の猿と虎との他は、皆可哀さうに物置の中におし込まれて居た。此の月になつて、子供等の苦心の作を、もう一度何とか生かしたいと思ひ、子供等に相談の上、動物列車を作つて、それに皆乗せて、何處かへ一度連れて行つて上げようと云ふ事になつた。

さて、汽車に就いて 機關車は、客車は、と色々實際驛へ見に行つたり、繪や寫眞を調べたり、隨分苦心したが、先月の「幼兒の教育」の中に、シカゴ師範大學附屬幼稚園の子供の汽車の寫眞が出て居たが、機關車はビール樽で作つてある様だ。これは成程面白いと、早速方々を尋ねて、やつとビール樽よりは少し小さい釘の樽を手に入れた。子供等はそれを見てもう小躍りして喜んで居る。さうして動物列車ちやなくつて、自分等が乗る大きい汽車を作り

たいと云ひ出した。池の組は特別にお部屋が狭いから、如何しようかと心配して居ると、穎一郎さんは「かまはないよ、お外で作ればいいぢやないか。雨が降れば廊下へ持つて来ればいい」と實に名案を出し、又一方、裕子さんは、「お部屋が狭くなつたら、いつかの動物園の時の様に、お辦當は林の組で戴ければいいのよ。」と皆口を揃へて大きな汽車を要求する、そこで、初めの計畫を更へて、望み通りの子供の列車にする事にした。

毎日庭に莫蘿を敷いて、其の上で仕事を續けて居る。機關車は例の釘の樽で、煙突とお釜とは、ブリキの海苔の丸鑑を釘で打ち付けた、石炭を焚く所と、石炭車とは、蜜柑箱の大きいのに、少し手を加へ、客車は、大きなサイダーの空箱を利用して、一箱に二人宛乗れる様に、具へ付けの腰掛けも出来上つた。全部が空箱利用の汽車だ。

子供等の熱心に依つて、毎日着々と仕事がはか取り、今朝は、この間からのお約束で、機關車塗りをした。穎一郎さんに、斎治さんは、バスケットのおしまひもそことこ外へ飛び出して來た。悪いエプロンに取り更へた小さな職工さん等は、なか／＼手際よく塗る。くたびれては變りな

がら、主に男の子が數人で、約一時間位もかゝつて、全部を真黒に塗り上げた。(塗料はセルペットを使つて見た。エナメルよりも乾きが早くていゝ。が、何も殊更そんなものを使はなくとも墨汁を塗ればよかつたと後で思った。)

お部屋の中では、朝から實習科生と一緒に、土曜日の續きのボール紙の飛行機製作に夢中である。翼がつき、坐席が出来、車輪も、プロペラも取りつけられ、立派な飛行機が出来上つて来る嬉しさに、まだ糊がよく乾かない先きに飛びまして、早速修理を要するのや、出来上つたのを眺めて、翼が一枚あるから舊式ねと云つてゐる者もある。土曜日にしなかつた子供も、すつかり釣り込まれて、お晝前までかゝつて殆んど全部が仕上つた。

一方、先程の塗り屋さんの連中は、何處からか蝸牛を捕へて来て、濡れた粘土板の上に乗せ、二匹を並べて競争させて居る。小さい方が勝つたと、脊の小さい穎一郎さんは大得意。其の中に、粘土板を濡らす爲に持つて來たバケツの水で、お砂場にお池が作られた。深く掘つてお水を入れる、が砂の事だからすぐに水を吸ひ込んでしまふ。それを又根氣よく、誠さんと登さんと二人して、お水運びに

かゝつてゐる。お池には橋がかゝり、トンネルが出来、トンネルの所から急に瀧の様に水が流れ落ちる様になつてゐる。お山を作つて、細い川があり、今度はその川上から水が流れて池に入り込む様に、工事が出来た。橋にもお砂で欄干が付けられ、積木の電車が勢よく走つてゐる。網の目の様に地下鐵道も出来た。この地下トンネルは非常に巧妙なもので、池の紐の男の子獨得のものである。それはかうだ。——この間お庭の裏の木の切株に、誰れかゞ無數の白蟻を發見した。「先生大變々々」と呼びに來た。そこは白蟻のお家で、灰色で羽の生えたのや、自くて頭の先きが鋭い鉄の様になつてゐるのが、やつと一匹が通れる位の穴から、出て來る！ 出て來る！ 次々に上方に引きも切らず出て來る。「あの地下鐵みたいな穴の中に入つて見たいね。」と誰れかゞ、「穴の中はとても廣いんだよ。色んなお部屋があつて、おごちさうだのなんかしまつてあるの。」と夢中になつて話してゐる。私がそつとお菓子を持つて來たら、白蟻は大喜びで、皆たかつて來て、少し宛くわへて、地下トンネルの中に運び去る。暫くたつて、四五人の男の子はお砂場の方へ走つて行つた。もう今日まで一周

間餘り、毎日々々、あの白蟻の様な地下トンネルを作つてゐる。上は平で、穴の中は縦横のトンネルが通じてゐるわけだ。この間等、誰れかにこわされるかと心配で、友達がお遊戯だと呼びに來ても、そこを離れる事が出来ない。

小さい組の人が番をして上げようと云つてもまだ心配で、とう／＼及川先生にくれ／＼もお願ひして、やつと離れた。

お晝のお辦當の時は、久しぶりで脹やかだつた。小さい組の終りからすつと病氣で休んでゐた哲夫さんと、正隆さん

とが、二人そろつて今日から來たので。永い事お休みだつたお友達には、特に皆が親切にする。何でもないのに皆が名前を呼んで見たり、ほら汽車がこんなに出來たでせうと、得意になつたりしてゐる。

午後丁度曇つてゐたので、家から持つて來た、黃瓜、赤花、隱元豆、絲瓜、瓢箪の苗を、花壇の縁と、蜜柑箱に植ゑた。

五月二十四日（火）

外へ！ 外へ！ 天氣快晴。一日を外で過す。

お庭はまさに花盛り。けし、シヤスター・デージー、花菱草、シラン、バラ、紫露草、白鳥華、虫取撫子等。

五月の朝のうるほひを帶びた大氣に、又何て可愛らしく

開いてゐるんだらう。朝早く來た齋治さんは、如何にも氣持よささうに花壇の間を静かに歩き廻つてゐる。「このけの花、昨日までまだおじぎしてたんだよ、それにもうこんな！」と大きな聲で呼んだので、お部屋の中で繪本を見てゐた四五人は、急いで外へ出て行つた。女の子が二人、水も滴るばかりの真赤なけしの花片を両手で受けて居るので、どうしたのかと思つたら、「花片が落ちて來るまでかうして待つてゐるの。」と云ふ。

五六人が草の上に坐つて、日曜日に遊びに行つた時のお話をしてゐる。一日の日曜を挿むと、子供等は、まるで幾日も會はなかつた人に話しかける様に、今日も又思ひ出しては、次から／＼色々な話しかける。まるで夢を追ふ様に、心は何時の間にか想像の世界へ入り込んでしまふ。

此の間、「汽車が出來上つたら何を作りませうか」と皆に相談をした。「シグナル」「レール」「停車場」「踏切」

「驛の名前」「お辦當や色んな賣物」「鐵橋」「トンネル」「切符」「汽車の車庫」「ロボットの機關手」等と特に汽車の事に就いて詳しい男の子が云ひ出した。丁度昨日、汽車の車が出來上つて來たので、これを取り付けるには鑿を使は

なければならぬので、實習科生に大體作つて置いてもらつた。皆嬉しさうに動かして見てゐる。

机も椅子も、皆藤棚の下へ持ち出した。ロボットを作るので、大きな粘土の固りを持つて來ると、子供等は喜んで粘土板をそれゞゝ運んで來てくれた。目的が解つて居るので、頭や胴や、手、足、帽子、其の他の附屬物は皆お互ひに相談の上で、分擔仕合つて作る事が出來た。蕊には竹を入れて、しつかりさせた。とても可愛らしいロボットが出来た。其の粘土の上から、丈夫な日本紙を細かくちぎつて、糊で一面に貼り付けた。さうすると、繪の具がよく塗れて、粘土の脆いのも幾分防げる様である。

女の子が七人程で、兎のお家を粘土で作つてゐる。大き

な兎から小さな兎まで、凡そ十四位も居るか。藤の葉を取つて來て、夫でとてもいゝ草履が出來てゐる。草の葉を粘土に挿して、人蔓やら、色んなおごちさうが並んでゐる。其處は八百屋さんで、おばさん兎が店先きで番をしてゐる。バスケットを口に咬へて、是からお買物に出掛けのお女中さんやら、

共同製作で、隨分延び／＼と作られて面白いと思つた。自由

五月二十一日(水)

弘毅さんが、昨日大きな水槽の中の金魚を捕へたとかで、

先月の二十一日に、ルコーグの種を、全部の子供が一鉢宛植木鉢に蒔いて、毎日々々、お水をやつたり、草を探つたりして、今芽が出るか出るかと、樂しみに待つて居たのに、一ヶ月立つた今日まで、まだ芽が出ない。別の苗床に朝顔の種を澤山蒔いて置いたのが、丁度三十本餘りも二葉が出て來たので、ルコーグのかはりに、植木鉢に一本宛、植ゑることにした。松葉牡丹の芽が、ぎつしり生えて來た。お山の上で、「動物の國」のお話しをする。もう一つして、としきりにせがんだが、お辦當があんまり遅くなるので、大急ぎでお仕度にとりかかる。皆お机を拭いたり、お盆を拭いたり、よく手傳つてくれる。涼しい藤棚の下でおいしく戴いた。

午後、男の子は大積木で軍艦を。女の子は、廣いお砂場で、龍宮遊びをしてゐる。お砂で、大きな龜が作つてあつて、それに細い竿をかつて浦島さんがまたがつてゐる。人形芝居の光景をそのままに表して、面白い。

一日外で暮して、皆よく陽にやけた。

さう云ふ譯でもないんだらうが、今朝とうと可哀さうに死んでしまつた。それで、池の組の子供等は、とても金魚に同情して、皆でお庭の隅にお墓を作つてやると云ひ出した。淺い穴だと、いたづらさんに掘り出されると云ふので、深い穴を掘つて埋めた。誰れか△三角形の大きな石をうん／＼云ひながら持つて來て、立てゝやつた。きれいなお花が具へられた。お砂のお園子も具へられた。さうしてかはるぐ／＼可愛い手を合せておがんでゐる。弘毅さんに、「よく金魚におわびを云つたら、堪忍してくれるよ。」と皆で云つてゐる。何とやさしい心持よ。

けしの花を寫生する豫定で、お庭に皆お椅子に、お帳面やクレオンを持つて來たが、金魚のお墓が餘程氣になると見えて、四五人を除く外、誰れも彼れもお墓の廻りに集つてお墓を描いてゐる。

皆揃つてお部屋でお唱歌。新らしく「おにごっこ」（日本教育音楽協會編）を教へる。歌詞も、調子も軽快なので、非常に歌ひ易い。強弱もしつかり付けて、元氣に、氣持よく歌ふ。カナリヤ、電車と汽車、お砂のトンネル、は一人宛でもよく歌へる様になつた。

お遊戯をする。今日の先頭は登ちやん。登ちやんは、小さじ組の時は勿論、大きい組になつても今月の初めまでどうしてもお遊戯をしなかつたのに、或る機會からちよつと入つて見る氣になり、今では實に愉快この上もない様な顔をして、夢中でやつてゐる。「おにごっこ」（土川五郎氏振）を新らしくする。子供は面白さうにする。其の他、「お砂のトンネル」「シャボン玉」「汽車ボツボ」「蝶々」「進軍」「こまどり」「あなたのまね」「牛若丸」「ものまね」——これは、行進をつゞけながら、色んなものゝ眞似をするのである。最も好むものは、たぬき、兎、象、蛙、あひる等の動物の眞似で、隨分よく各特長をつかんでゐる。次は、おばあさん（おぢいさんと云つたら、半分位がシャン／＼歩き出したどうしたのかと思つたら、おばあさんでなくちや、お腰は曲つて居ないよ。で大笑ひ）。お角力さん等。「お洗濯」——お洗濯の動作を皆思ひ／＼の形に表す、リズムに合せて、表現は全く子供の自由である。これをする時には必ず申し合せた様に、ハンカチを出して一層感じを表はしてゐる。「象」——今日は皆手を連いだましやがんで、象の柵とし、一匹の象が眞中に出て、ビア

ノに合せてのそへ歩き廻り、好きな所へ行つておじぎをする。された人が又象になる。と云ふ風にして見た。象はとてもうまい。途中で、にゅつと鼻をのばして、餌を取つて口へ持つて来るの等真にせまつてゐる。「ボートレース」

——皆がボートレースの選手になつて、三組に分れ、子供の審判官が一人出て、色々の合圖をする。列が曲つてゐたり、横見をしたりすると、すぐに審判官が注意する。そして、一着二着をきめて、一着の組はすつと前に進める。早くゴールに入つた組が優勝と云ふことになる。最後に一人宛スキップ。」

午後、昨日のロボットが乾いたので、ドロ繪具を塗る。帽子は黒、上衣は黄、ズボンは緑にしたが、紙を貼つてあるので、色がきれいに塗れた。

五月二十六日(木)

朝、來た子供も來た子供も、大急ぎで外へ出で行く。どこへ行くのかと思つたら、昨日の金魚のお墓へお詣りに行くのだ。お墓には、いつの間にかちゃんと新らしいお花が咲いてあり、廻りを積木で囲ひがしてある。

お部屋に、いゝバラが生けてあるので、それを見て、バ

ラの塗り繪をする。あんまりいゝ香りがするので、塗り繪のバラもきれいに塗つたら香ひがすると思つてか、皆、ほつて見てゐる。

豫ねてお約束の様に、子供に人形芝居をしてもらふことにした。大きな舞臺を持つて来て、お人形も、バツクも皆私等がする様に用意して、子供に渡す。齋治さんがお爺さん、弘毅さんがおばさん、陽一さんが雀で、「舌切雀」をする。初めてさせて見たが、人形の使ひ方と云ひ、臺詞と云ひ、上手なのに感心した。(大抵初めてすると、云ふ方ばかりに氣が取られて、人形が棒立ちになるものだが。)先づカチカチ鳴らして、幕が開く。箸をしきりに動かして、「ばあさんや、もうあの寒い〜冬がちきに來るのう。」と菊池先生の口調をそのままに、「わしは年をとると冬は何より閉口ぢや〜」。雀がお糊をなめる所、「チュツ〜〜〜、あゝおいしかつた〜」。まあ何てこの糊おいしいんでせう。こんなおいしいの食べたことないわ、ほつべたがおつこちさう。」おはあさんが、「まあ仕様がない雀ですこと、そんないぢきたなしのお舌は切つてしまひませう。チヨキン。」「舌切り雀、お宿は何處だ。」と尋ねて行く。雀歸りに、萬範のお土

産、おばあさんが「ところで雀や、ばあさんは大へん急ぐので、済まないが、お土産だけくださいな。」と云ふ所等、皆それ／＼の先生そつくりの聲を出して、實に要點をつかんでゐる。最後に、私が雀になつて、「小さいパン」のお話をする。よく聞いてゐる。

食事後、早速男の子は、機關車を遊戲室に持ち出して、積木でレールを作つて、おしてゐる。積木のレールは、脱線して顛覆の恐れがあるので、チヨークのレールにする様にした。何しろ、珍らしいのと、嬉しいのとで、遊戲室中馳け廻つてゐる。見物人で大變。交通巡査が必要になつて來た。旗を頂戴と云ふので、新庄先生の所から、日の丸の旗を頂いて來たら、「こんな旗だめだい。赤と、青でなくちやだめ。」と云ふ。成程、交通信号は赤と青だ。そこで早速模造紙で作たら、蜜柑色の、注意の旗もいるんだと他の一人も一生懸命に作つてゐる。

お外へ出して、お歸りまで遊んでもいい事にした。

交通巡査の命令に従つて、汽車をおじて行く人は汗だくく。

他所の組の應援も入つて、大入満員。まだ未完成な汽車

の中からこんなに景氣がいいのだから、出來上つた暁には、どんなに大變だらう。

今日は風が強い爲、特に、含嗽をよくする様注意する。

五月二十七日（金）

海軍紀念日。

朝、早く來た人から大きな軍艦を筆で書かせる。航空母艦、戦闘艦、巡洋艦等思ひ／＼の軍艦を、如何にものびのびとした線で描いてのける。日頃小さい貧弱な繪を描いてゐる人等も、今日は、四ツ切書用紙一杯に大きく、大胆に、生々と筆を運んだので嬉しかつた。乾いたらそれを切りぬく。水色の廣いラシャ紙の上に立たせる。丁度雄大な觀艦式の様。お部屋の中の上空に、先日作つた二十數臺の陸上飛行機が並んでゐる。風の吹く毎に、左右にゆれて、實に空と海との壯觀だ。

堺の外に、「海軍紀念日」の幟を立て太勢の人が歌ひながら歩いて居る様なので、男の子は門の所まで見に行く。小學校の生徒の行進だつた。男の子は、もう有頂天になつてさわぎ出した。

忠ちゃんがよくお仕事をする様になつた。其上、今日は

初めて（幼稚園へ入つて以來）女の子のおまゝごとに入つて遊んで居る。今まで、山の組の兄弟とばかり遊んで、他の友達とはまるで無交渉だつた。が兄弟二人で、忠ちゃんが赤ちゃん、もう一人がお兄さんになつてすまして居る。之で池の組ではお友達と遊べない子供が一人もなくなつた。

太鼓や、タンボリン等の樂隊道具を持つて、全體で本校へ遊びに行く事にした。特に男の子は大喜び、可成り重い太鼓を首に掛けた、樂隊屋さんを先頭に、先程の小學生の行進を其の儘に、色んな歌を歌ひながら樂隊に合せて歩き出した。

ぎつしり生えたクローバの上で、ボートレースが始まつた。三人の樂隊屋さんは、小山の上に腰を下して、盛んに鳴らして、應援してゐる。男の方の組が初めに負けたら、樂隊屋さん等は悔しがつて、皆選手に成てしまつた。自分等が入らないから負けたんだつて、物凄い勢で漕ぎ出した。草原の上を、兎になつて跳ね廻つたり、一人で太鼓をたゝきながら、大きな聲で歌つたり、又それに合せて、皆で歌つたり、全くそこは、何の障害もない子供の天地だ。

木蔭で、笹の葉で、笹巻きを作つたり、クローバで首飾

りや、花輪をこしらへてるるグループもある。

小さい組が、お辨當を持つて、遠足に來た。それを見て「池の組でも此處で戴くの」と云つて聞かない。可成り道が遠いから、幼稚園まで、又取りに歸るのはどうかと思つたが、皆あまり元氣だから、大急ぎで、お辨當だのお盆、お茶等を運んで來た。「おしゃれ。おしゃれ」と云ひながら食べて居る。「僕足らないや」と云つてゐる子供も居る。

昆虫採集に興味が出て、この頃、外に出ると、皆で色々なものを採つて来る。毛虫に、てんとう虫、たま虫、でんぐり虫、みゝず、あぶ、蟻、根切り虫、草かけらふ、小金虫等。この間採つたてんとう虫が黃い卵を生んで、幼虫が生れて來た。みゝずは、龜にやる事に定めてゐる。あぶら虫は、てんとう虫の御馳走。採つて來た虫をどうするかと云ふと、たま虫、でんぐり虫、てんとう虫等の可愛らしいのは、大事さうに紙に包んで、家へ持つて歸る子供が居る。其の他は、お歸る時に、にがしてやる。

今日は實によく遊んだ。五月のビクニツク、子供等は疲れる事を知らない。

朝早く來た二三人は、お部屋で繪本を見て居た私等の所へ、はあ／＼云ひながら馳けて來て、「金魚のお墓が壊れちゃつたの。」と云ひに來た。早速皆で修繕をする。もう今日で四日、子供等は朝先づお詣りする事にしてゐるらしい。

菖蒲の切り紙をする。初め五六人で切つて居たのが、お砂場の子供も、おまゝごとの子供も、皆入つて來たので、満員になる。花の恰好から、葉の先きが尖つてゐる所まで、よく注意深く實物を見ながら切る陽一さん、さつさと切つて、さつさと貼つて、片付けてしまふ志津子さん、大膽にやつてのける養一さん、説明が長くて、手があまり果取らない者、お隣りの人の眞似ばかりしてゐる者、だまつて、器用に鍼を動かして居る者等。早く出來た二三人は、紙屑を拾つたり、色んなお片附けのお手傳ひをしてくれる。お遊戯室でお唱歌。「おにぎっこ。」「カナリヤ。」「電車と汽車」等。其の時、五十人位も參觀人がぞろ／＼入つて見えたので、注意が稍々散る。

遊戯は例のもの。象の柵を作つて、一人象におなりなさいと云つたら、皆口々に、「動物園には、雄と雌と二匹居るわよ。」と云はれた。終りに一人づつするスキップの代り

に、一人づつこまどりをする。二人手を連いでゐるのはお友達をする。

お部屋で、實習科のBさんに、ガリバア旅行記のこの前の續きをしてもらう。「ガリバアのお話しの續きよ。」とお外の子供等を呼びに行くと、大喜びで駆け込んで來た。大きい組になつてからは殊に探險的な、然も長いお話しを非常に好む。續きをしても、前のお話しは皆よく覚えてゐる。今日はあまり長くならない途中で切り上げて、次を約束する。日曜日には皆の朝顔が、水も何も戴けなくて可哀さうだからと、油糠の肥料をそれ／＼子供等にやらせた。

汽車の箱を塗るのに、なか／＼氣に入る様ない、色が出ない。地塗に、一度胡粉を膠で溶いて塗つては、と伺つたので、今日はさうして見た。箱の内側は、クリーム色の、マンノーを塗つた。これは色はいゝが、水に剥げるので、外に塗るわけには行かない。塗料としては、エナメル、ラツカ、セルベット等色々あるが、隨分高價につくので、何とか考へる餘地がある。

今週は非常に出席工合がよく、缺席者は鈴木さん一人だ。け。それも風邪で、來週から多分來られるらしい。

保育そのとおり

倉 橋 生

つて、幼稚園で、水責めにして置く程の罪でもありますまい。おまけに、歸る時もぬれ靴をはいて歸るべしといふ宣告が出てゐる譯でありますまい。

一、ぬれたたびから風をひく。

一、雨季が来る、先生の心に一層の晴れやかさが必要になる。くもり先生、じめり先生、じめく先生、あまだれ

(頭垂れ)先生などは、入梅中殊に禁もつ。

一、憎い雨、不都合の雨とばかり、そうお叱りになつてばかりゐますと、雨がまた愈々泣き出すだけでせう。けた話であるが。

一、憎い雨、不都合の雨とばかり、そうお叱りになつてばかりゐますと、雨がまた愈々泣き出すだけでせう。

一、ぬれた靴下のまゝで遊んでゐる子はありませんか。そここの保母さんに、御苦勞さまの一言ぐらゐ言つて上げて下さい。

ぬれた洋服のまゝで腰かけてゐる子はありませんか。親の不行届、子の不注意には相違ございませんが、だからと言でせう。

花壇 並に 花壇用草花年中行事

—(六月)—

日比谷公園花壇係

富本光郎

つて球根は肥大し大花を開くものである。

左に掘り上げる必要あるものと然らざるものとを掲げておく。

掘上げる必要あるもの、

ヒヤシンス、チウリップ、アイリス、クロツカス、フ
リージャ、早咲グラデオラス、アネモネ、イキシヤ、
ムスカリ、レンンキユーラス、オニンガラム、スバ
ラキシス、トリトニア、バビアナ等

掘上げなくてよいもの、

水仙、チャーチンアイリス、アガパンサス、ブローデ
イアオキザリス、シラー等

春植球根類の掘上げ
チウリップ、ヒヤシンス、アネモネ等春植球根類は今月中旬頃になると葉が褐色に枯れて来るから掘上げて貯蔵する。此時名稱など間違はない様十分注意し、附着物土壤等を綺麗に取除き二、三日日陰に並べてよく乾燥し箱又は袋等に入れて秋植込むまで空氣の流通よく又鼠などに害されない所に貯蔵しておく。少量の場合は物置などの天井に釣り下げるのが一番安全である。

春候のものでも水仙等は掘上げる必要なく、その儘その場所に植え置いてよいので二、三年位堀り上げない方が却

草花の採種

六六

三月下旬頃より開花してゐる秋蒔の一年生草花類——ス

トツク、パンジー、金盞花、ルビナ

ス、勿忘草、シレネ、シネラリヤ、

アリツサム、ネモフキラ——等は花を絞り結實して來るから、完熟したものから順次採種して前記球根同様冷涼な場所に貯藏しておく。

こうして自家で精撰採種したもの

ならば、秋になつて種苗商で購入したものなどより發芽も確めて確實にて安心して播種することが出来、又興味も深いものである。

野生草花の採集



此日谷公園のクロツクガーデン部一の花開く夏

一、春開花するもの

石の縁などに山野にそれ等の生育したた場所となるべく同じ状態に植込んでおいてやれば、年と共に繁殖してつましやかに開花し西洋草花などを作るのとは違つた特殊の深い樂しみのあるものである。

一、春開花するもの

おきなぐさ、ゆきわりきう、じちりんさう、にりんさう、さんりんさう、さくらさう、えびね、きんらん、ぎんらん、いかりさう、やまぶきさう等

一、夏開花するもの

くりんさう、すぢらん、くまがいさう、あつもりさう、あざみ、ぎぼうし、つきみさう、さきごけ、しゃが、やぐるまさう、かはらなでしこ、もうせんごけ、いしむぢさう

西洋草花などにてはでな花壇を造る一方、附近に日歸り

の旅行などした折左記の様な山草野草の類を採集して持ち

一、秋開花するもの

ひめしやくなげ等
ききよう、りんどう、しゅうめいきく、おけら、ほと
歸り、別にロツクガーデンなど造らずとも庭の木の下又は

さす、おみなへし、おとこへし、ふちばかま、よめ
な、こんぎく、つはぶき等

睡蓮の手入

今月から七月、八月頃にかけては

何と云つても水の中の花の喜ばれる

時で殊に睡蓮は泉の女神ナイヤデス

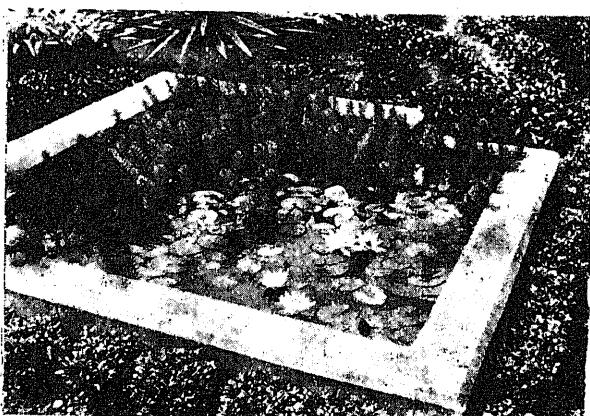
の化神として傳へられる物語的な花

として又夏の水の世界の女王として

水栽植物中第一の人氣を荷つてゐる

もので、又それだけの品位と美しさ

を持つてゐるものである。



デヂー、アルメリヤ等 の花後の管理

春花壇で縁植などに非常に廣く用ひられたデジー、アルメリヤ、プリムラ
ボリアンサス等矮性宿根草は、抜き取
つて培養場又は他の畑に持ち込み、古
葉、古花を綺麗に取除き丁寧に調製し
て床に植付け此頃は暑さも可激しい
のであるから、暫らくの間は日覆して
十分に管理し秋になつて入用の數だけ
に株分する。

と。芽先に十分日光の當ること、肥料を十分施すこと、蝦
蟲を十分驅除すること、等であるから十日に一回位水のと
り替へと外廻りの黃色くなつた古い葉や古い花を取り除く

こと。二十日に一回位棒鰯を一本宛一鉢に施用すること。
野蟲の發生した時は薬剤の撒布等を常に注意して怠らない
様にすれば次々と開花してくれるものである。

其 他 の 作 業

一、中旬より梅雨期に入り雑草の繁茂も非常に速かである

から努めて除草する。

一、先月同様春咲草花の花の終つたものは抜き取つて順次

初夏のものと植換を行ふ。

一、薔薇は害蟲の發生激しい時であるからよく注意して捕殺し又二十日に一回位の割合で薄い液肥を施用する。

一、牡丹、芍藥等は葉のくさる病氣の豫防のため、一、二回三斗式石灰ボルドーを噴霧器でかけてやる。

一、其他、菊、朝顔、ダリア等夫々そのもの特殊の手入に常に注意が肝要である。

ベーカー博士講演會

□七月一日（金）午後三時

□京橋銀座 銀座教會に於て（邦樂座の川向ふ）

□講師 ベーカ女史 通譯 村岡花子女史

ベーカー女史は米國のエバンストン市にある教育大學の總長にして、特に幼兒教育に於てはコロンビヤのヒル女史と共に權威者である。

□一般の來聽を歓迎する

□主催キリスト教保育聯盟

園藝暦

(六月 水無月)

大岩

金

芒種
氣節入梅

六日頃
十二日頃

グサ) 小さい葉の中に開いた白丁花の花などみな美しく見
えます。
木物としては垣根にからませたビナンカヅラの緑、一重、
八重、白、紅の蔓バラなどは等も皆見頃であります。

觀賞

草花類では開花期間の長いシャスター・デージー、マーガ

レット、美女櫻、フロツクス、昇り藤、ロベリアなどが前

月に引續いて咲き切花向きのスキートビー、カーネーション、矢車草、花菖蒲、ダーリヤなど見頃であります。あまり日の照らない所に枝も折れる程の大きな花をつけた紫陽花のあさやかさ日當りに咲いた花におとらぬ眺めであります。

雨をあびて緑つやゝかなタチテンモンドウ(一名ホタル

仕事

一、繁殖(挿木)

この期の繁殖は梅雨期でありますから種々の常綠樹の挿木をするのであります。縁取用の灌木、生垣用樹木類はその主なものであります。

草花にありますては大菊の挿木を始めとしバーベナ、パンジー、金蓮花、マーガレット、ベゴニア、コリウス、イレジネなど大方のものの芽先を摘んで砂挿すればよく活着

します。挿木した箱の上には摺障子をのせて雨に直接打たせないやうにする事は草花類のやうな性質のかよわいものには必要であります。

二、害虫驅除

今月最も多い害蟲と驅除剤

蚜蟲類、デリス石鹼液、ネオトン、除蟲菊石鹼合剤

毛蟲類、燒却又は砒酸鉛液撒布

根切蟲

夜盜蟲

コガネムシ

捕殺又は砒酸鉛液撒布す

金龜蟲

ウリバエ

爪守

三、その他の仕事

ダーリヤやトマトの不用の芽を摘み支柱に結びつけてやること。

ビートや二十日大根の間引をし後に施肥をすること。

ヘチマも定植して、柵の用意をしてやらなければなりません。

濕り跡のこの月には晴天の日にはなるべくよく日光に當てると同時に通風をよくするやうに注意し又密植の部分は間引して相當の間隙をつくつてやるなどなか／＼多事であります。

四、收穫

イ、草花の採種

春咲きの草花中早春から咲いて居りますシネラリヤ、三色堇、シレネベンデュラ、金盞花、オダマキ、アラセイトウ、ニホヒアラセイトウなどの種子を晴天の日を見ては採らなければなりません。

ロ、蔬菜類

草莓、トマト、菜豆、紫蘇ビート、二十日大根など夫々收穫が出来ます。

バースレーの周年の收穫を望みますならばこの切花梗を生じて参りますから是を摘み取るやうにしなければなりません。

エンソク

日本教育音楽協会編

$\text{♩} = 100$



一オヒサマニコニコニホンバレ ケフハ
ニオテテーツティデアルキマセウ シヤウカラ



ウレシイエンソクヨ ヲカニツイタラ、
ウタツテアルキマセウ



オベンタウタベタ オハナヲツンデ アソビマセウ

土川五郎

一、オヒサマ……両手を頭上へ丸くあぐ

ニコニコ……兩肱を落し両手先を顔の左右に掌を向き合せ
下を向く

ニホン……拍手二回

バレ……両手を上方より左右に開き掌を上に向けて上方を見
る

ケフハ……左足にて床を踏む時頭を左に傾け左掌上にして
前に出し右手にて上より拍手一回

ウレシイ……右足にて床を踏むとき頭を右に傾け右掌上左
手を上よりして拍手一回

エンソクヨ……両手を強く大きく振りつゝ足踏三回

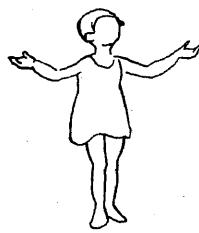
ンホニ コニコニ マサヒオ



イシレウ

ハフケ

レバ



テ

テオ

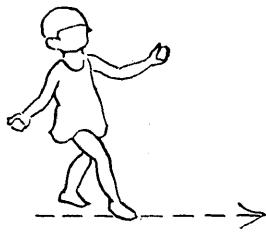
ヨクソンエ



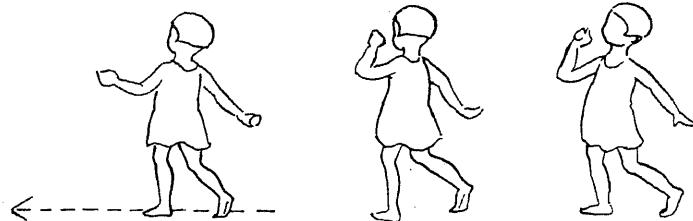
ウセマキルア

ティイ

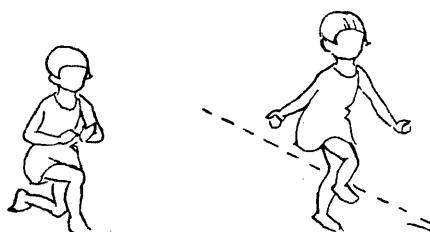
ナツ



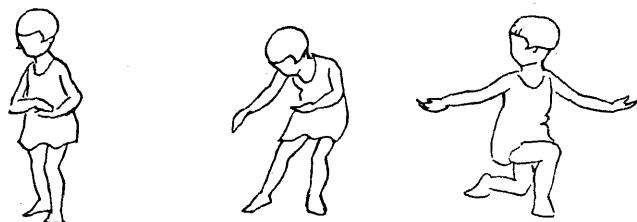
ウセマキルア テツタウ ヲカウヤシ



ウタンベオ ラタイツニカラ



ヲナ ハオ テベタ
デ ンツ



ウセマビソア



一、オテテ……全生手をつなぎ顔を左に向け「オテ」にて左足を左へのばしつま先きにて床を打つこゝ一回次に「チ」にて踏み出して右足を出す用意をなす（上體を右に少し傾く様にして）

ツナイデー……右つま先にて床を軽く打つこゝ一回「イデ」にて尙其右足にて踏みしめて左足を出す用意をなす

アルキマセウ……手をつなぎ左へ三歩

シヤウカチ……右向右足前に左かがみをあけ體重を右に托し左肩を下げ顔を右上に向け右手をあけ右手先を丸くして口に近づく

ウタツテ……左足前に右肩を下げ左上を向き左手先を口に近づく

アルキマセウ……連手して右へ三歩

チカニツイタラ……正面に向ひ連手のまゝ前進す

オベンタウ……拍手二回にてかがむ

タベテ……兩掌上にして前より左右に開く時右左生にて顔を合はす

オハ……立ちて左足一步あごへ右手にて前下の花をつむ

ナチ……右足を左足に引きつける時掌を上にしたる左手の上に花をのせる

ツンデ……左足を引き右手に花をつみ 右足を引きつけ花を左掌にのせる

アソビマセウ……拍手しつゝスキップ三回右廻轉して正面となる

注文規定

稟告

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論説調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
- 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げるのこと、また句讀點は一字あけること。
- 一、寄稿並に本誌の編輯に関する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雑誌、入會手續、更に
- 本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

不許複製載轉禁

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
編輯兼發行者 柴山惣三
印刷所 杏林舍 常合著
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

- (外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
- 一ヶ月分一冊 金貳拾五錢 送料壹錢
- 半ヶ年分六冊 金貳圓拾錢 送料共一ヶ年拾貳冊 金四圓貳拾錢 送料共
- 昭和七年六月十二日印刷納本
- 昭和七年六月十五日發行
- 幼兒の教育 第三十二卷 第六號

廣告

特等面一頁	金貳拾圓	二等面一頁	金貳拾圓
一等面一頁	金貳拾五圓	一頁以下御断	

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい。

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
常合著
杏林舍
柴山惣三

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
常合著
杏林舍
柴山惣三

昭和幼年唱歌

第一輯目次

第二輯目次

伴定送
奏價料
本錢
附各十二
美四

廣島高師教諭 山本壽先生著
音楽教育の三大方面

小松、梁田、葛原先生著

菊判美裝函入
定價四、五〇

文部省認定 小學歌曲選集

四六倍判美裝
定價一、二〇

小松耕輔先生著 自第一集至第三集

小松耕輔歌曲集

四六倍判美裝
定價各五十錢

梁田貞先生著 自第一集至第五集

梁田貞歌曲

四六倍判美裝
定價各五十錢

小松・葛原・梁田先生著

大正少年唱歌

菊判クロース製
定價二圓五十錢

小松・葛原・梁田先生著

大正少年唱歌合本

菊判クロース製
定價二圓五十錢

貞田梁・輔耕松小
著共生先茲 原葛

清水良雄 裝伯
釘畫

ラヂオ體操
やねの上の雀
はまべの子
私の箱庭

第一輯目次

お家にあかりがつきました
夕立やんで
牛と馬
めえ／親山羊子供山羊

ベリカン

日暮山霧

昭和少年唱歌

貞田梁・輔耕松小
著共生先茲 原葛

清水良雄 裝伯
釘畫

園長先生
人參食てる兎さん
猿はひつかく
鸚鵡のお家
蟲がはねた
ベンギン

驢馬がにげる
野原はひろい
ワクノボリ
鎧を著たい
家鴨を數へませう
越がつきたい

伴定送
奏價料
本錢
附各十二
美四

大正少年唱歌

菊判クロース製
定價二圓五十錢

大正少年唱歌

大正少年唱歌合本

菊判クロース製
定價二圓五十錢

貞田梁・輔耕松小
著共生先茲 原葛

清水良雄 裝伯
釘畫

お宮とお寺
柿の種と握り飯

第一輯目次

夕立やんで
牛と馬
めえ／親山羊子供山羊

ベリカン

日暮山霧

お家にあかりがつきました

第二輯目次

夕立やんで

牛と馬

めえ／親山羊子供山羊

日暮山霧

お家にあかりがつきました

夕立やんで

牛と馬

めえ／親山羊子供山羊

日暮山霧

廣島大學文理教科授學士博久良英著

好評

久良英著

學士博

廣島大學文理教科授

實驗

第四編

第三編

第二編

第一編

人格心理學

行動心理學

精神主義

複雜行動篇

現代心理學叢書

新刊

第二編

精神分析學

心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならず之れが應用的方面に於ては殆んど無盡藏と謂ふべく少くとも形而上の諸科學の中に在つては第一位にある。猶殊に最近斯學が教育界に齋らした影響甚大さは特筆すべきもので性教育の根本的解決などに付ても精神分析法を用ひては殆んど不可能とせらるて居る。久保博士は常に我心理學界に於ける餘念なき人、即ち精神分析法を創造して學界の啓發に貢献する所を周到懇切に詳述せるものなるを以て書中最新學說の充満せること終始一貫純正なる學者的事は言を俟たず。

形態心理學

菊判 定價三圓五十八錢
洋綴一冊 送料

三十

八

錢

第六編

第五編

第四編

第三編

第二編

第一編

人格心理學

行動心理學

精神主義

複雜行動篇

簡單行動篇

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

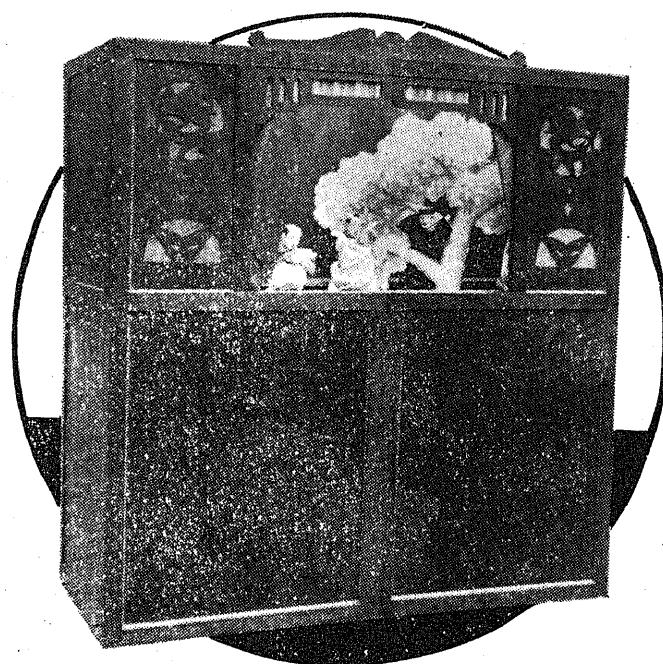
◆

◆

◆

◆

◆



(圖八二) 古舞居芝形人

お整ひですか

御園の御設備は？

新しい御豫算のもとに、お安く、丈夫に、
保育用品の御設備を遊ばす絶好期、ご申す
のは、

- | | | |
|---------------|------|----|
| ◇メリーゴーラウンド | 八 | ○圓 |
| ◇太鼓梯子 | 八 | 八圓 |
| ◇スマート・セット | 三 | 二圓 |
| ◇大型三人乗りシーソー | 七 | 〇圓 |
| ◇箱 積 木 | 一八〇圓 | |
| ◇ヒル氏積木 | 一三五圓 | |
| ◇コンビネーション運動具 | 八 | 五圓 |
| ◇桦 登 リ | 一一五圓 | |
| ◇鐵製二人乗ブランコ | 五 | 三圓 |
| ◇大型鐵道滑り臺 | 七 | 五圓 |
| ◇樂隊あそび | 一 | 八圓 |
| ◇人形芝居用舞台・人形一揃 | 四 | 五圓 |
| ◇子供の家(社會遊び) | 八 | 七圓 |

一般の原料 工賃が下落したまゝに
而も、多量生産による合理的低價で
御用命に應じられますから。さてその品
々は

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
毎二回十日發行

昭和七年六月十二日印刷納本
昭和七年六月十五日發行

定價三十五錢